

令和3年度

全国体力・運動能力，運動習慣等調査

鹿児島県結果分析



## 令和3年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査について

### 1 調査の目的

全国体力・運動能力，運動習慣等調査は，子どもの体力等の状況に鑑み，全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより，子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にスポーツ庁が実施しているものです。

### 2 調査の結果について

本調査結果は，実技調査8項目，及び運動習慣等の質問紙調査による体力等の特定の一部を示したものです。

また，学校の教育活動は，多面的，総合的に行われるものであり，調査結果は，あくまで学校における教育活動の一側面であるので，御留意ください。

## 目 次

○ 県全体の調査結果(公立)	1
1 体格に関する調査結果概要	2
2 実技に関する調査結果概要	4
3 運動習慣等に関する調査結果概要	8
4 生活習慣等に対する調査結果概要	13
5 運動やスポーツ，体育・保健体育の授業に関する調査結果概要	16
6 児童生徒の回答と体力合計点とのクロス集計	21
7 学校質問紙から	24
8 全体考察	29
9 改善のポイント	31

# 県全体の調査結果〔公立〕

## 本県の調査実施状況

### 1 調査の期間

令和3年4月～7月末

### 2 調査の概要

- 調査方法：悉皆調査
- 対象学年：小学校第5学年，特別支援学校小学部第5学年  
中学校第2学年，特別支援学校中学部第2学年  
※ 小・中学校にはそれぞれ義務教育学校を含む。
- 調査事項
  - 児童生徒に関する調査
    - ・ 実技に関する調査：小・中学校ともに8項目の実技調査  
① 握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび  
⑤ 20mシャトルラン（中学校は持久走との選択）  
⑥ 50m走 ⑦立ち幅とび ⑧ ボール投げ
    - ・ 運動習慣や生活習慣，運動への興味・関心等に関する調査
  - 学校に対する質問紙調査
    - ・ 子どもの体力・運動能力，運動習慣等の向上に係る取組等に関する調査

### 3 本県調査参加校及び参加児童生徒数

- 小 学 校：498校      14,743人
- 中 学 校：223校      13,523人
- 計   721校      28,266人

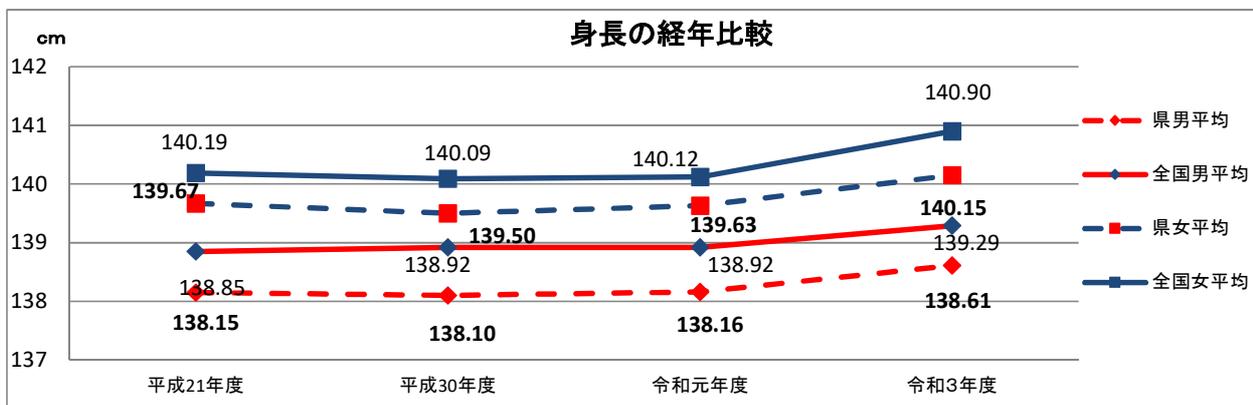
※ 小学校，中学校にはそれぞれ義務教育学校，特別支援学校を含む。

# 1 体格に関する調査結果概要

## (1) 本県の身長(cm)に関する調査の結果

### ア【小学校】

小学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差									
5年男子	5年男子	138.15	138.85	-0.70	138.10	138.92	-0.82	138.16	138.92	-0.76	138.61	139.29	-0.68
	5年女子	139.67	140.19	-0.52	139.50	140.09	-0.59	139.63	140.12	-0.49	140.15	140.90	-0.75

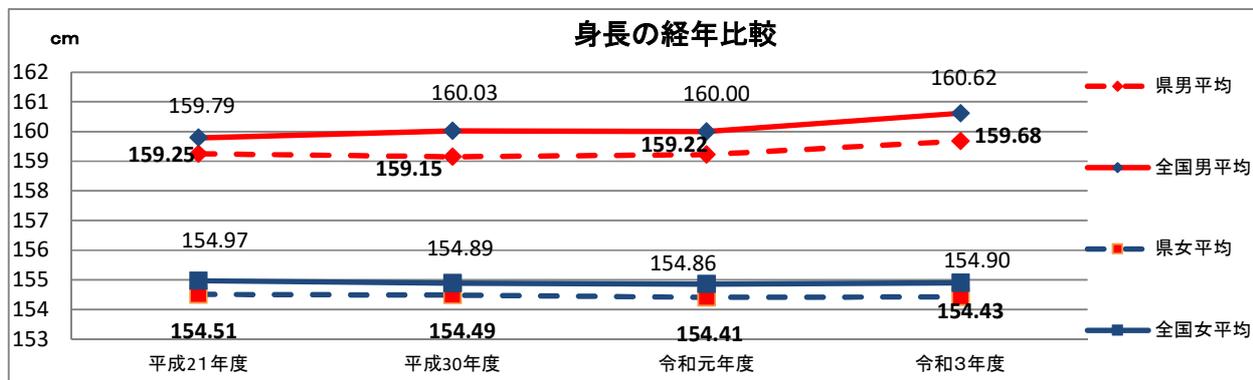


〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに低い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに高くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、これまでと大きな変化は見られず、男女ともに全国平均より低い状況が続いている。

### イ【中学校】

中学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差									
2年男子	2年男子	159.25	159.79	-0.54	159.15	160.03	-0.88	159.22	160.00	-0.78	159.68	160.62	-0.94
	2年女子	154.51	154.97	-0.46	154.49	154.89	-0.40	154.41	154.86	-0.45	154.43	154.90	-0.47



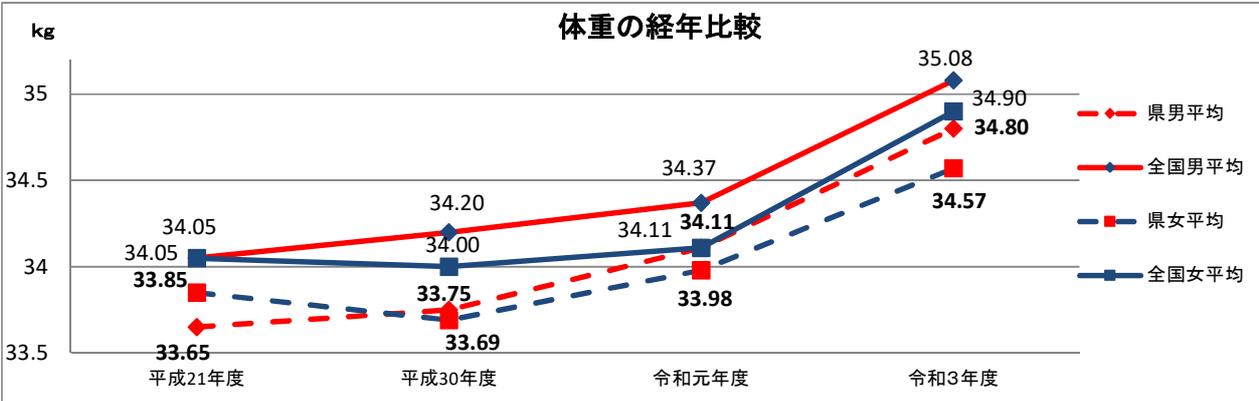
〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに低い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに高くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、これまでと大きな変化は見られず、男女ともに全国平均より低い状況が続いている。

(2) 本県の体重(kg)に関する調査の結果

ア【小学校】

小学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
5年男子	5年男子	33.65	34.05	-0.40	33.75	34.20	-0.45	34.11	34.37	-0.26	34.80	35.08	-0.28
	5年女子	33.85	34.05	-0.20	33.69	34.00	-0.31	33.98	34.11	-0.13	34.57	34.90	-0.33

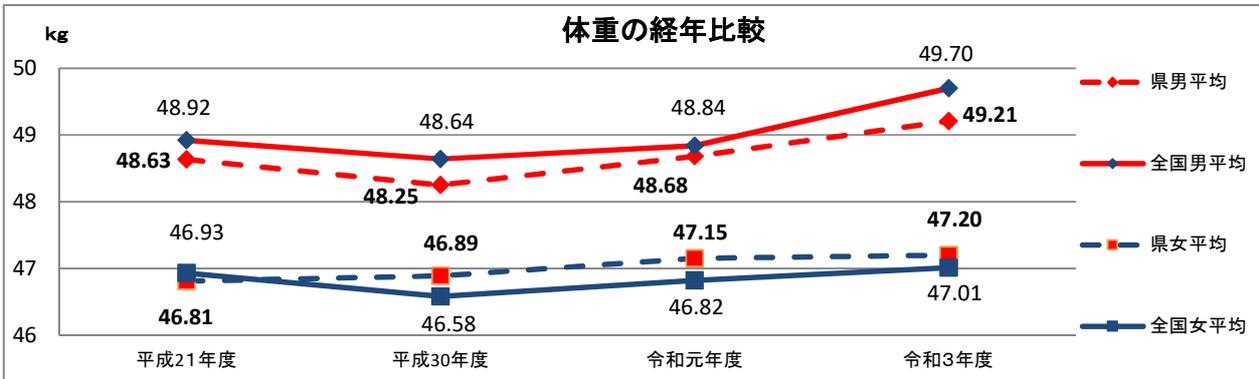


〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに軽い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに重くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、これまでと大きな変化は見られず、男女ともに全国平均より軽い状況が続いている。

イ【中学校】

中学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
2年男子	2年男子	48.63	48.92	-0.29	48.25	48.64	-0.39	48.68	48.84	-0.16	49.21	49.70	-0.49
	2年女子	46.81	46.93	-0.12	46.89	46.58	0.31	47.15	46.82	0.33	47.20	47.01	0.19



〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男子は軽く、女子は重い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに重くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、男子は軽い状況が続いており、女子は、平成30年度以降、重い状況が続いている。

## 2 実技に関する調査結果概要

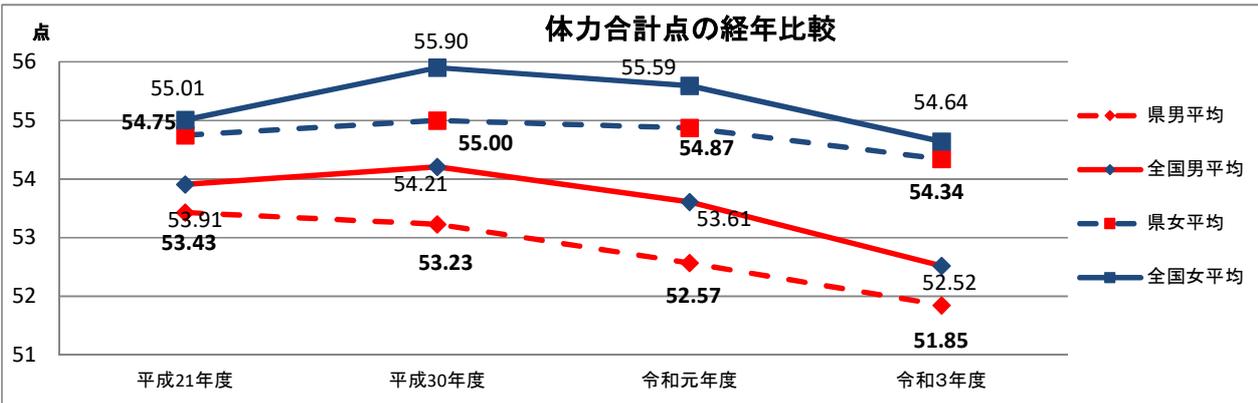
### (1) 本県の体力合計点に関する調査の結果

#### ア【小学校】

小学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
小学校	5年男子	53.43	53.91	-0.48	53.23	54.21	-0.98	52.57	53.61	-1.04	51.85	52.52	-0.67
	5年女子	54.75	55.01	-0.26	55.00	55.90	-0.90	54.87	55.59	-0.72	54.34	54.64	-0.30

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

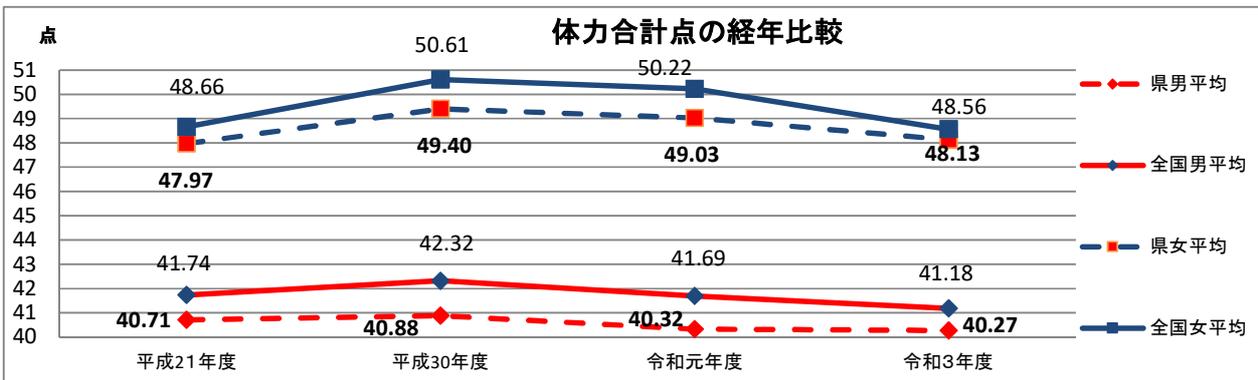


#### 〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男子が「わずかに低い」、女子が「ほとんど差がない」結果となった。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに低くなった。
- 男子は、調査開始以降で最も低くなった。
- 県平均と全国平均との差については、男女ともに令和元年度より縮まっている。

#### イ【中学校】

中学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
中学校	2年男子	40.71	41.74	-1.03	40.88	42.32	-1.44	40.32	41.69	-1.37	40.27	41.18	-0.91
	2年女子	47.97	48.66	-0.69	49.40	50.61	-1.21	49.03	50.22	-1.19	48.13	48.56	-0.43



#### 〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男子が「わずかに低い」、女子が「ほとんど差がない」結果となった。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに低くなった。
- 男子は、調査開始以降で最も低くなった。
- 県平均と全国平均との差については、男女ともに令和元年度より縮まっている。

(2) 体力合計点の度数分布

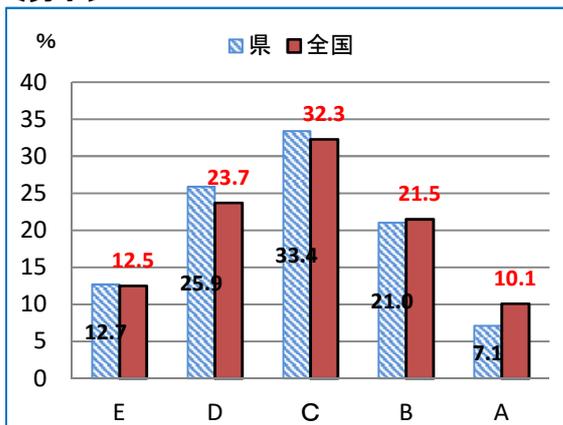
体力合計点の度数分布のグラフについて

※ 体力合計点の総合評価は、実技項目(8項目)の記録を、1点から10点に得点化し、その8項目の合計点をA, B, C, D, Eの段階に区分したものです。  
 ○小学校 A:65以上 B:58~64 C:50~57 D:42~49 E:41以下  
 ○中学校 A:57以上 B:47~56 C:37~46 D:27~36 E:26以下  
 ※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示しています。

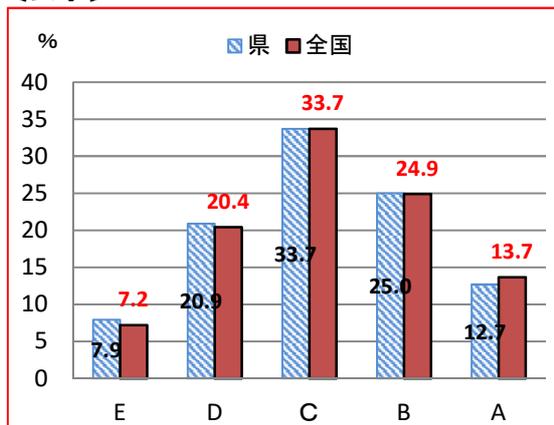
※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)  
 ±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

ア【小学校】

[男子]



[女子]

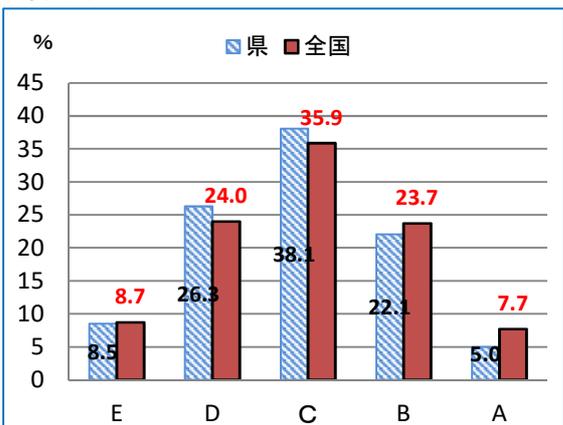


〈現状〉

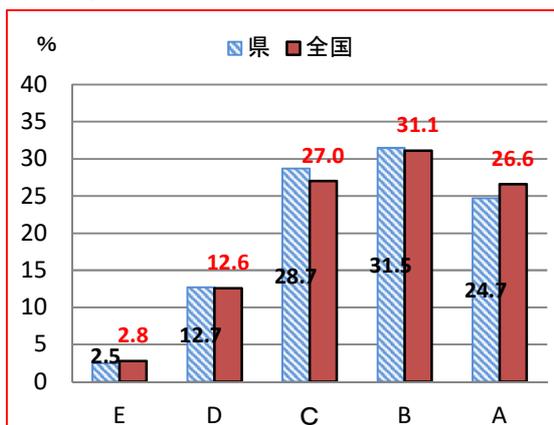
- 男子は、C, Dの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。
- 女子は、D, Eの割合が全国よりもわずかに高く、Aの割合が全国より低い。

イ【中学校】

[男子]



[女子]



〈現状〉

- 男子は、C, Dの割合が全国よりも高く、A, Bの割合が全国より低い。
- 女子は、Cの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。

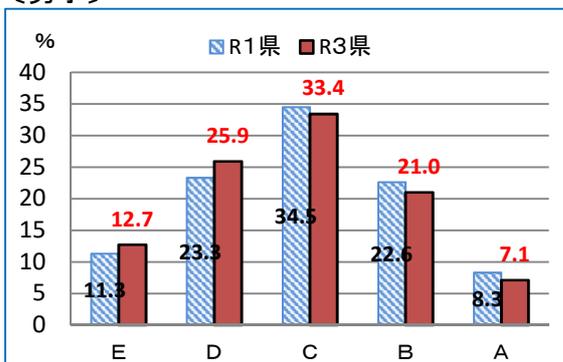
(3) 体力合計点の度数分布の令和元年度との比較

ア【小学校】

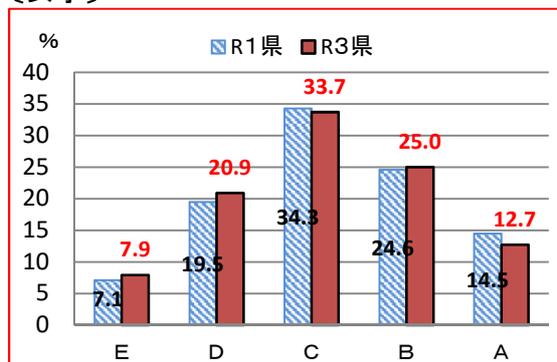
※ AB-DE値について

全体的な体力の状況をとらえる指標の1つで、体力合計点Cをはさんで、Cよりも高いABとCよりも低いDEの差をみるものである。

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	8.3	22.6	23.3	11.3	-3.7	
R3年度	7.1	21.0	25.9	12.7	-10.5	↓

〔女子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	14.5	24.6	19.5	7.1	12.5	
R3年度	12.7	25.0	20.9	7.9	8.9	↓

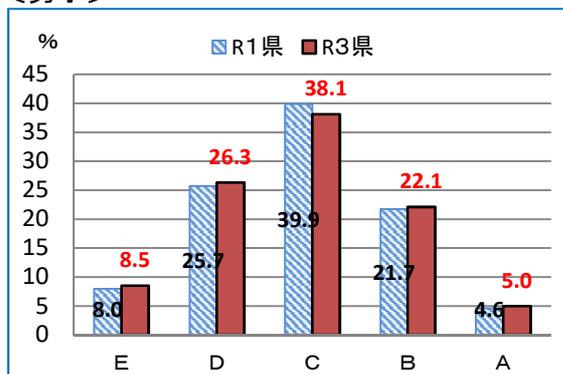
〈現状〉

○ 男子は、AB-DE値がマイナスポイントとなっており、令和元年度より数値も低くなっている。

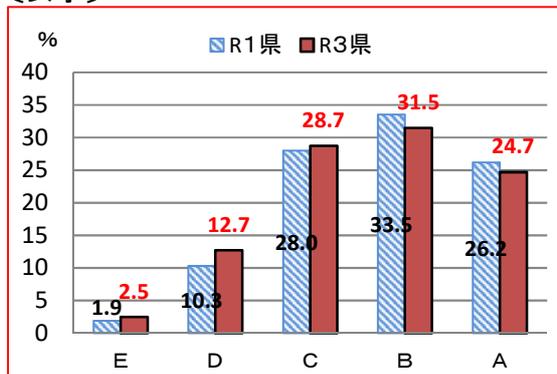
○ 女子は、令和元年度と同様、AB-DE値がプラスポイントとなっているが、数値は低くなっている。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	4.6	21.7	25.7	8.0	-7.4	
R3年度	5.0	22.1	26.3	8.5	-7.7	↓

〔女子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	26.2	33.5	10.3	1.9	47.5	
R3年度	24.7	31.5	12.7	2.5	41.0	↓

〈現状〉

○ 男子は、AB-DE値がマイナスポイントとなっており、令和元年度とほぼ同程度の数値となっている。

○ 女子は、令和元年度と同様、AB-DE値が高い数値となっているが、数値は低くなっている。

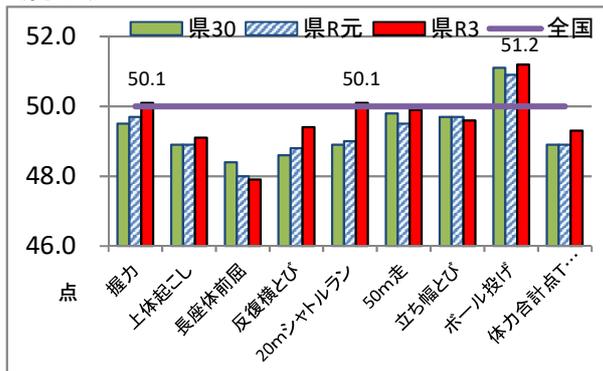
(4) 各実技調査項目のT得点結果について

各実技調査項目のグラフについて

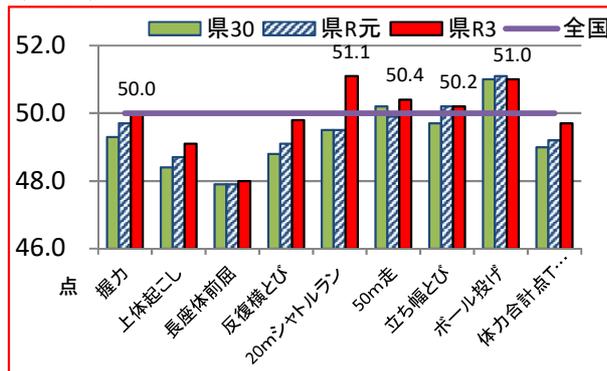
- ※ 実技調査項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学校は、持久走との選択)、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8項目、及び体力合計点のT得点を示したものです。
- ※ T得点とは、全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較するものです。平均値50点、標準偏差10点の標準得点。「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」で算出します。
- ※ グラフ上の50.0の目盛り線は、全国のT得点を表しています。

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

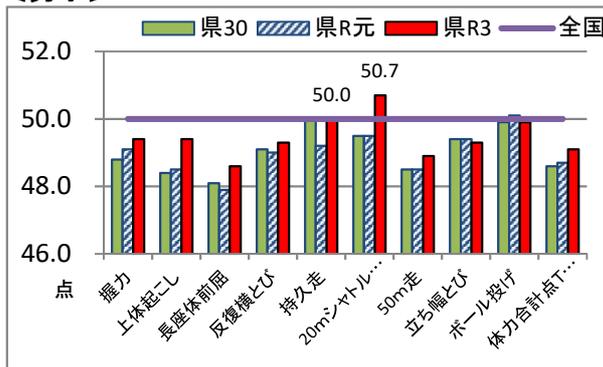


〈現状及び課題〉

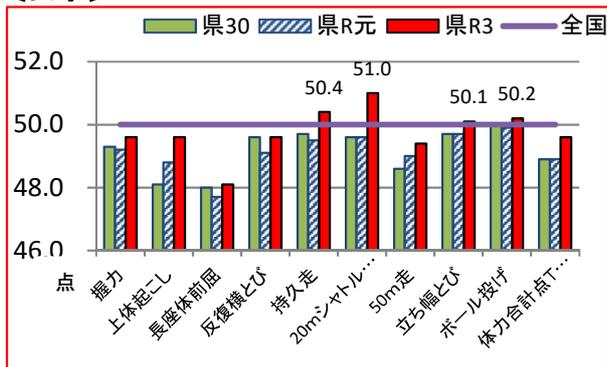
- T得点50以上の項目は、握力(男女)、20mシャトルラン(男女)、ボール投げ(男女)と50m走(女子)、立ち幅とび(女子)である。
- 令和元年度より向上した項目数は、男女ともに6項目である。
- T得点49以下の項目については、男女ともに1項目である。長座体前屈については、男女ともに6年連続T得点49以下であり、柔軟性に課題がある。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

- T得点50以上の項目は、持久走(男女)、20mシャトルラン(男女)と立ち幅とび(女子)、ボール投げ(女子)である。
- 令和元年度より向上した項目数は、男子が6項目、女子が8項目である(持久走と20mシャトルランについては、どちらかを実施することとなっているため、同一項目としてカウントしている)。
- 長座体前屈のT得点は、男女ともに4年連続して49以下であり、柔軟性に課題がある。

### 3 運動習慣等に関する調査結果概要

#### 運動時間(曜日別)グラフについて

※ 運動時間は、学校の体育の授業(保健体育)の授業以外で運動(体を動かす遊びを含む※注)やスポーツをした時間です。

※注(体を動かす遊びを含む)の文言は、平成26年度の質問から追加されたものです。

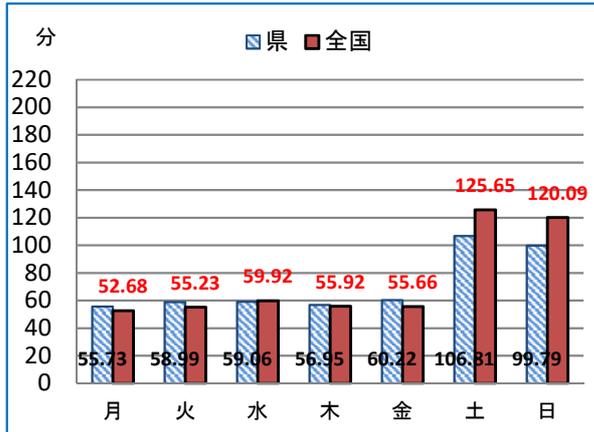
※ グラフの横軸は、曜日を示しています。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動時間(分)を示しています。

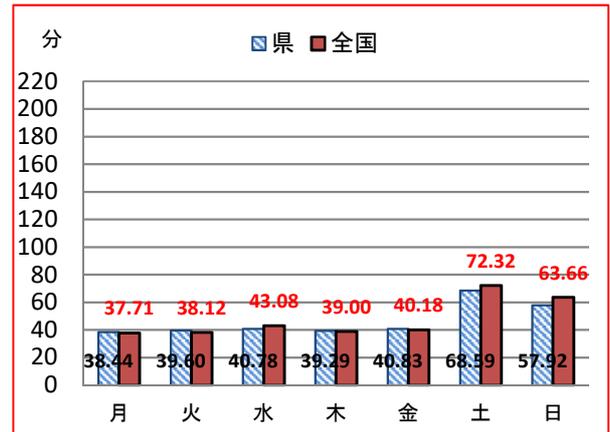
#### (1) 1週間の運動時間に関する全国との比較

##### ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

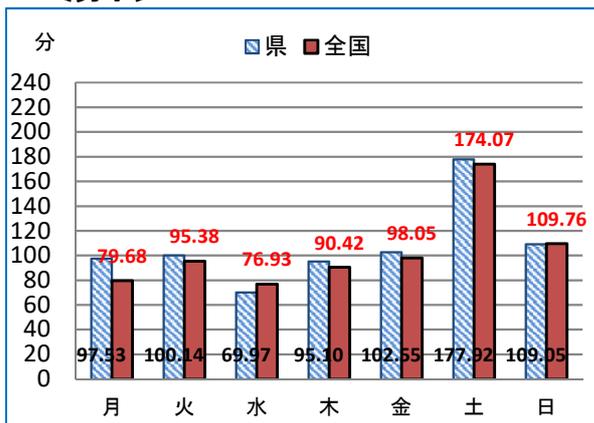


#### 〈現状〉

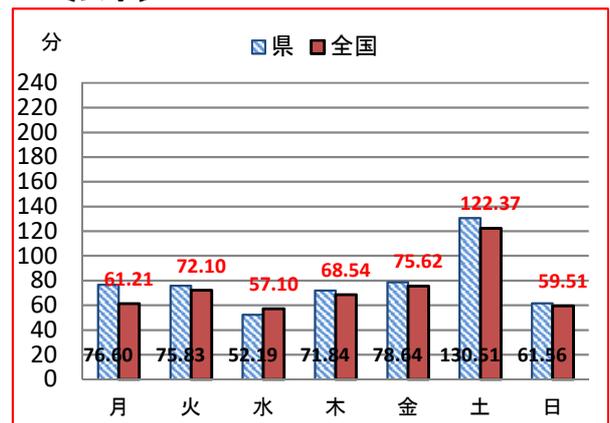
- 男女ともに月～金曜日は全国よりも長い。ほとんど差が見られない。
- 土・日曜日は全国より短い。特に、男子の差が大きい。

##### イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



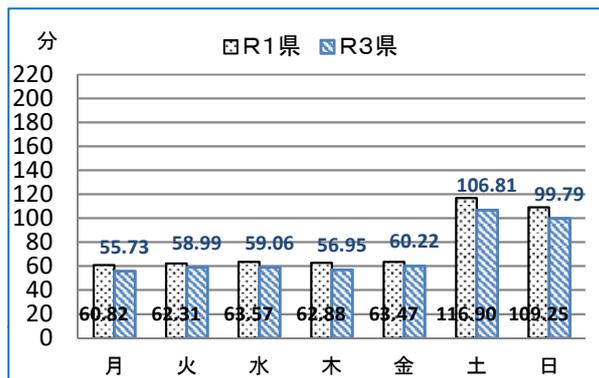
#### 〈現状〉

- 男女ともに平日の水曜日以外は全国よりも長い。ほとんど差が見られない。
- 男女ともに水曜日については、全国より短い。
- 土・日曜日については、男女とも全国よりも長い。ほとんど差が見られない。

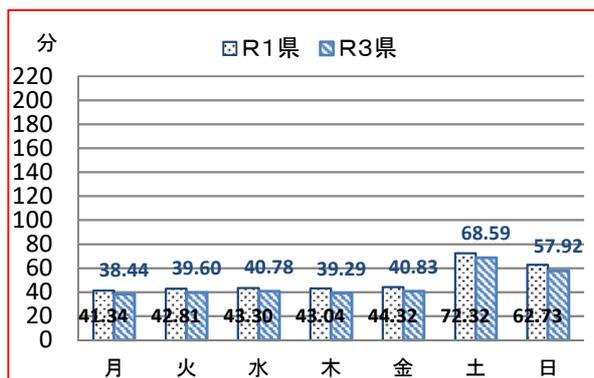
(2) 1週間の運動時間に関する令和元年度との比較

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

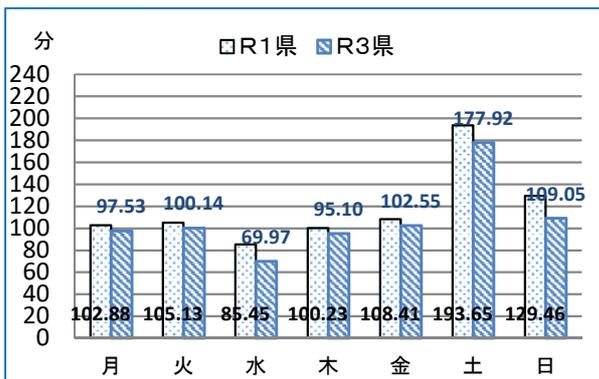


〈現状〉

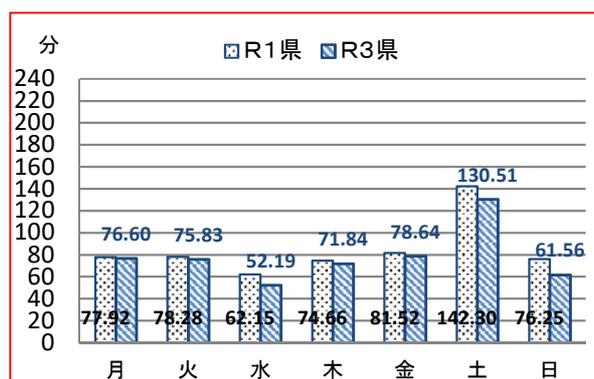
- 男女ともに、全ての曜日で令和元年度より運動時間が短くなっている。
- 特に土・日曜日が短くなっている。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕

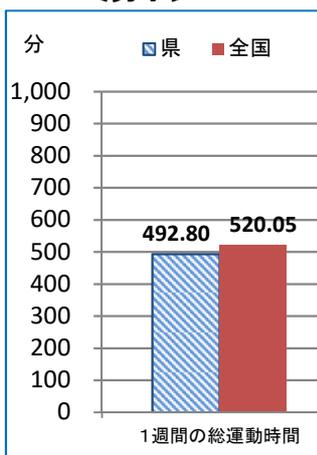


〈現状〉

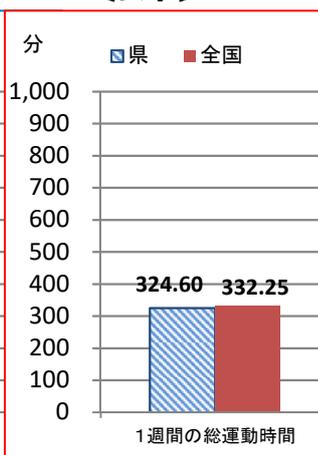
- 男女ともに、全ての曜日で令和元年度より運動時間が短くなっている。
- 小学校同様、特に土・日曜日が短くなっている。

(3) 1週間の総運動時間における全国との比較

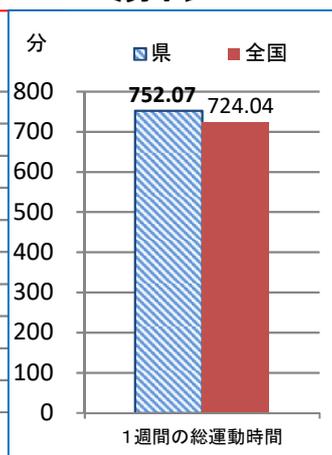
ア【小学校】  
〔男子〕



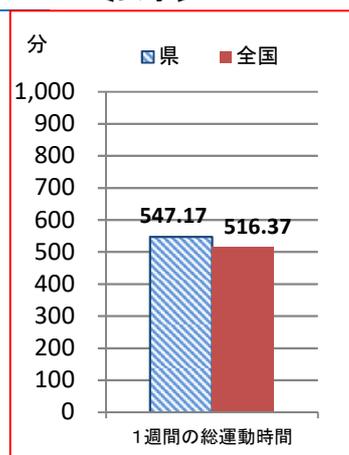
〔女子〕



イ【中学校】  
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

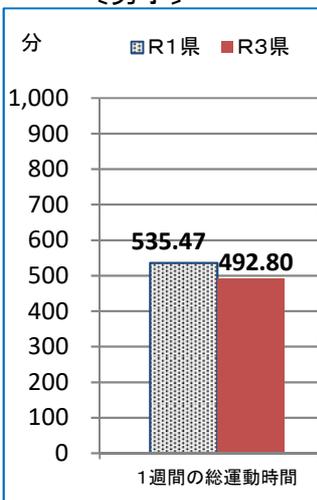
- 小学校男子は、全国よりわずかに短く、小学校女子は全国とほとんど差がない。
- 中学校男女は、全国よりわずかに長い。

※ 1週間の総運動時間(分)の考察コメント(スポーツ庁)

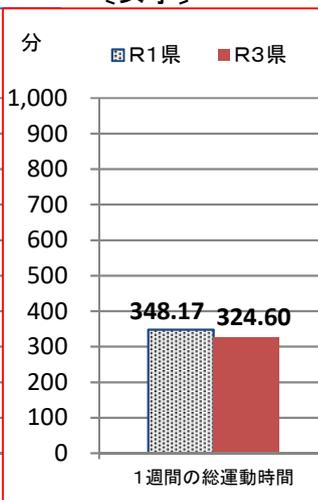
±35分以上:長(短)い ±21分~±35分未満:わずかに長(短)い ±21分未満:ほとんど差がない

(4) 1週間の総運動時間の令和元年度との比較

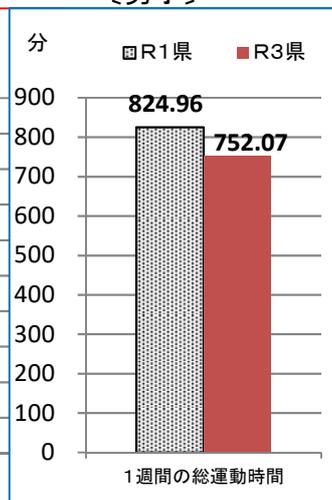
ア【小学校】  
〔男子〕



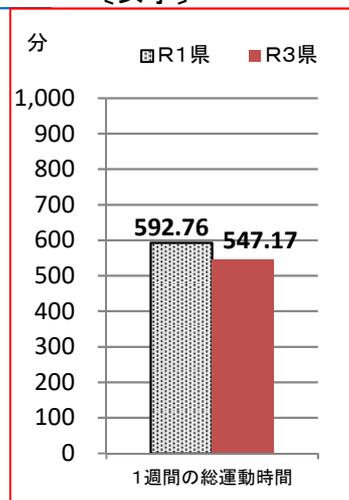
〔女子〕



イ【中学校】  
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

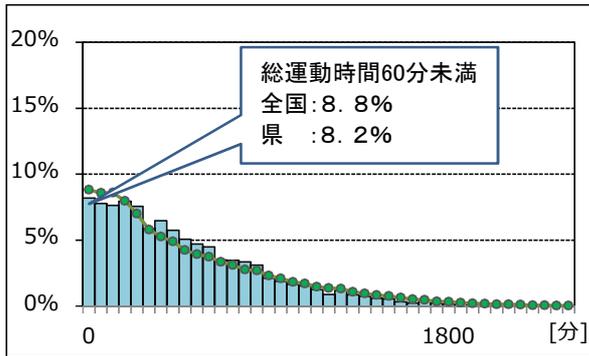
- 令和元年度と比較すると、小学校女子はわずかに短くなっている。
- 令和元年度と比較すると、小学校男子、中学校男女は、短くなっている。

(5) 1週間の総運動時間(体育の授業を除く)の分布

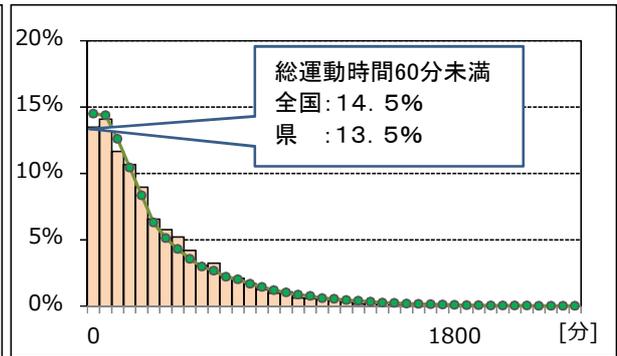
1週間の総運動時間の分布を、横軸を60分の階級、縦軸を割合で表しています。

(0～59分, 60～119分, 120～179分 …………… 2340～2400分)

〔男子〕

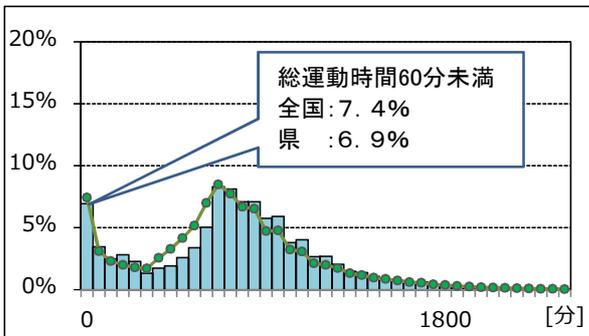


〔女子〕

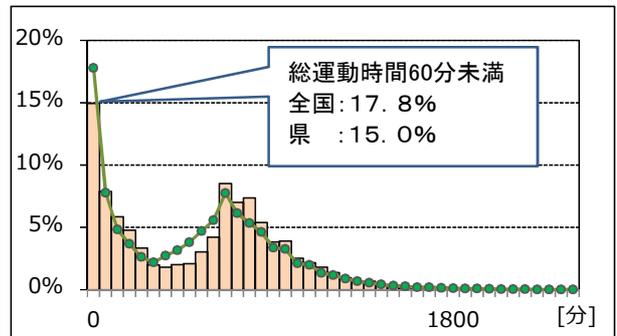


イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



※折れ線グラフは、全国(公立学校)の分布

校種	男女	全国・県	0分	60分未満	60分～420分未満	0分～420分未満計
小学校 第5学年	男子	県	3.5%	4.7%	43.3%	51.5%
		全国	4.0%	4.8%	43.2%	52.0%
	女子	県	4.3%	9.2%	57.7%	71.2%
		全国	5.1%	9.4%	57.2%	71.7%
中学校 第2学年	男子	県	4.4%	2.5%	14.1%	21.0%
		全国	5.3%	2.1%	13.4%	20.8%
	女子	県	8.8%	6.2%	25.6%	40.6%
		全国	11.3%	6.5%	23.8%	41.6%

〈現状〉

- 本県児童生徒の1週間の総運動時間の分布は、おおむね全国と同じ傾向である。
- 総運動時間420分未満の割合についても、おおむね全国と同じ傾向である(小学校男女及び中学校女子は全国平均より低い。中学校男子は全国より高い)。

(6) 1週間の総運動時間420分未満及び420分以上の児童生徒の推移

					R元年度比減	R元年度比増
	年度	0分	1～60分未満	60～420分未満	0～420分未満計	420分以上
小学校 第5学年男	29	2.1%	3.2%	36.8%	42.1%	57.9%
	30	2.8%	3.4%	38.2%	44.4%	55.6%
	R元	3.6%	4.1%	39.9%	47.6%	52.4%
	R3	3.5%	4.7%	43.3%	51.5%	48.5%
小学校 第5学年女	29	2.9%	7.4%	54.2%	64.5%	35.5%
	30	3.7%	7.9%	55.2%	66.8%	33.2%
	R元	4.4%	8.5%	55.7%	68.6%	31.4%
	R3	4.3%	9.2%	57.7%	71.2%	28.8%
中学校 第2学年男	29	3.6%	1.5%	9.1%	14.2%	85.8%
	30	4.7%	1.6%	10.7%	17.0%	83.0%
	R元	4.7%	2.0%	12.2%	18.9%	81.1%
	R3	4.4%	2.5%	14.1%	21.0%	79.0%
中学校 第2学年女	29	10.3%	5.6%	21.2%	37.1%	62.9%
	30	10.8%	5.3%	22.6%	38.7%	61.3%
	R元	9.8%	6.6%	23.6%	40.0%	60.0%
	R3	8.8%	6.2%	25.6%	40.6%	59.4%

〈現状〉

- 1週間の総運動時間が0～420分未満の割合が増え、420分以上の割合が減る傾向がある。
- 1週間の総運動時間が0分の児童生徒については、特に中学校女子の割合が依然として高い。

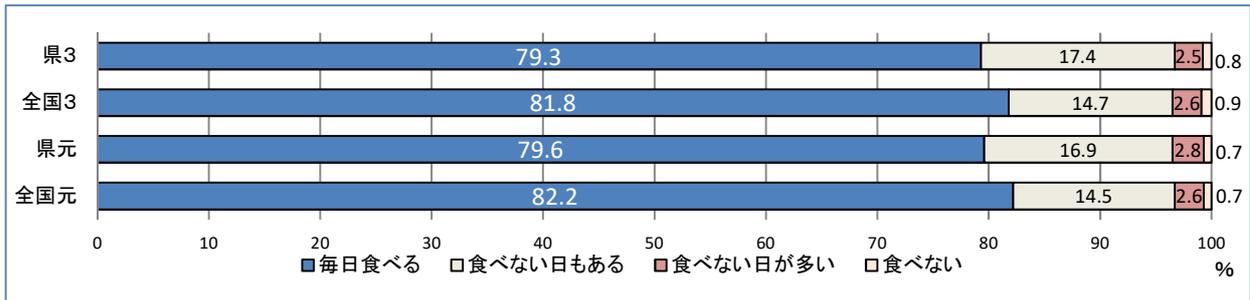
## 4 生活習慣等に関する調査結果概要

### (1) 朝食の摂取状況(学校が休みの日も含める)の結果

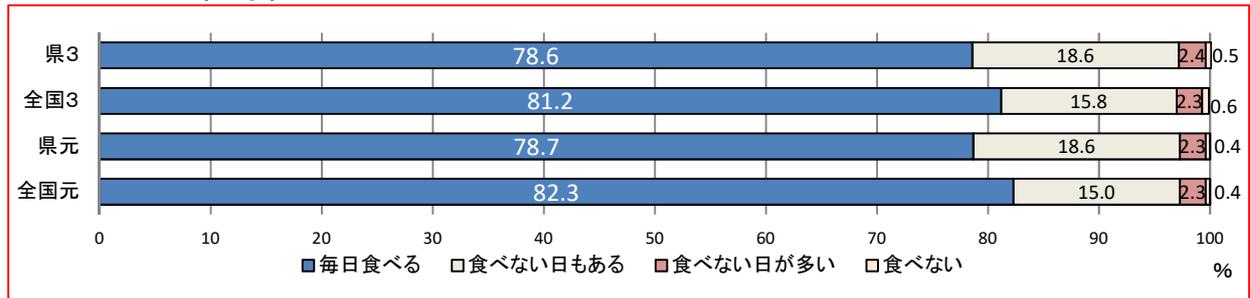
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

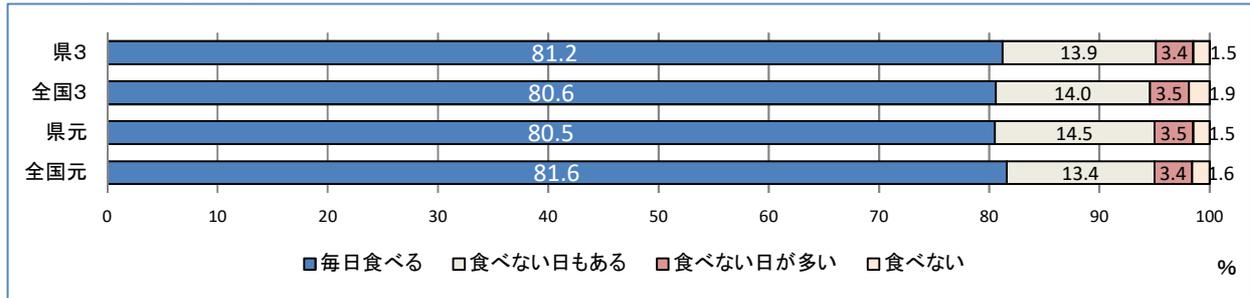
#### ア 【小学校】[男子]



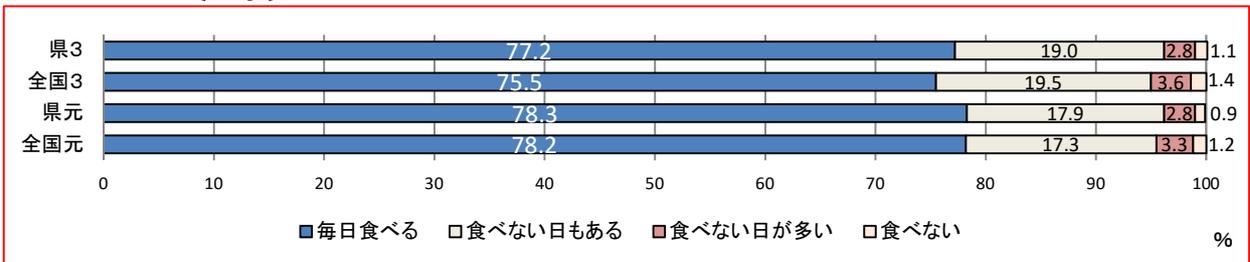
#### [女子]



#### イ 【中学校】[男子]



#### [女子]



#### 〈現状〉

##### 【小学校】

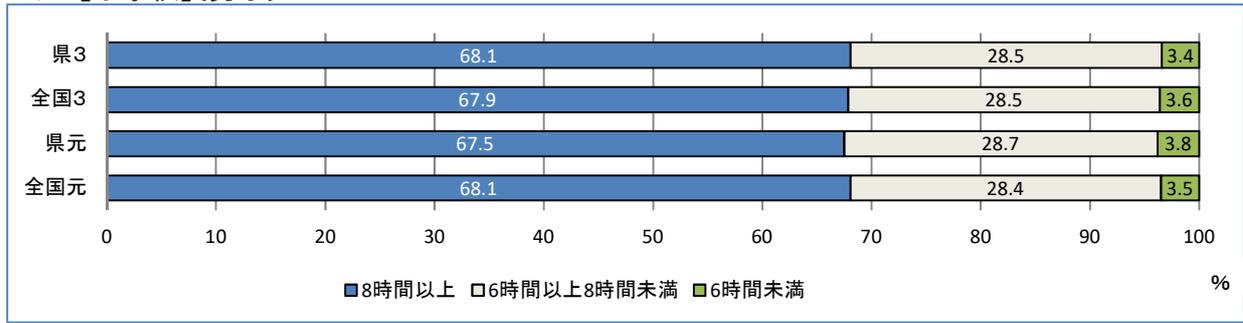
- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女とも低い。
- 県の令和元年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

##### 【中学校】

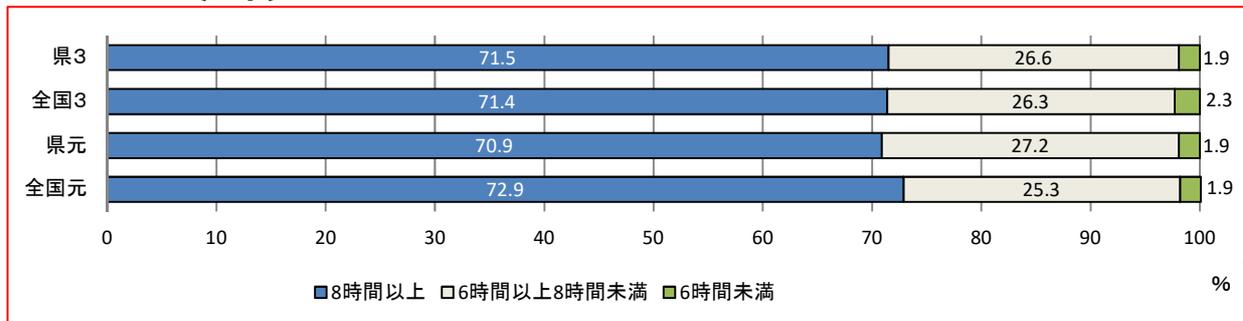
- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに高い。
- 県の令和元年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低くなっている。

(2) 1日の睡眠時間の結果

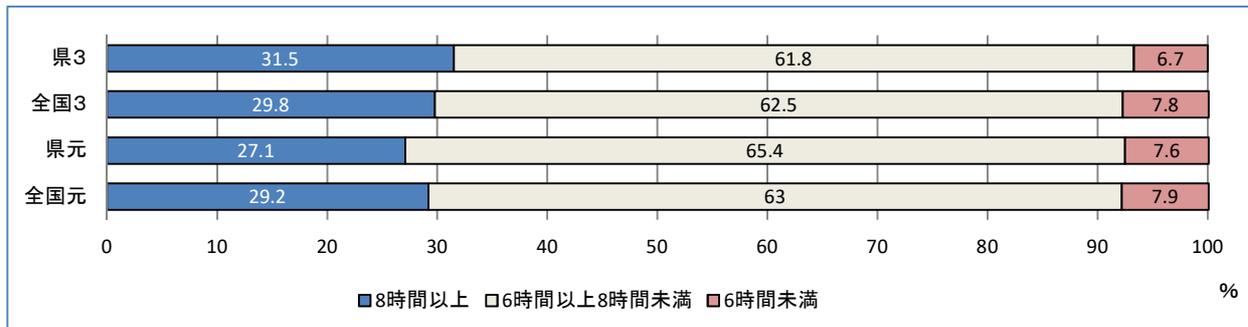
ア【小学校】〔男子〕



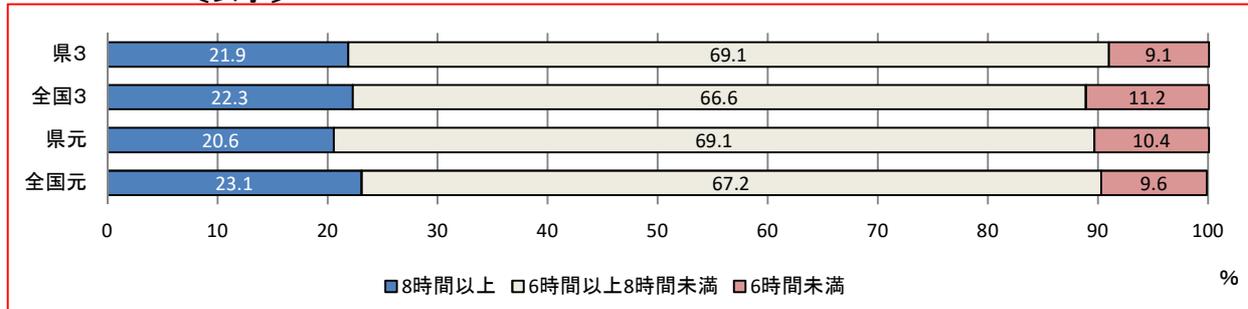
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

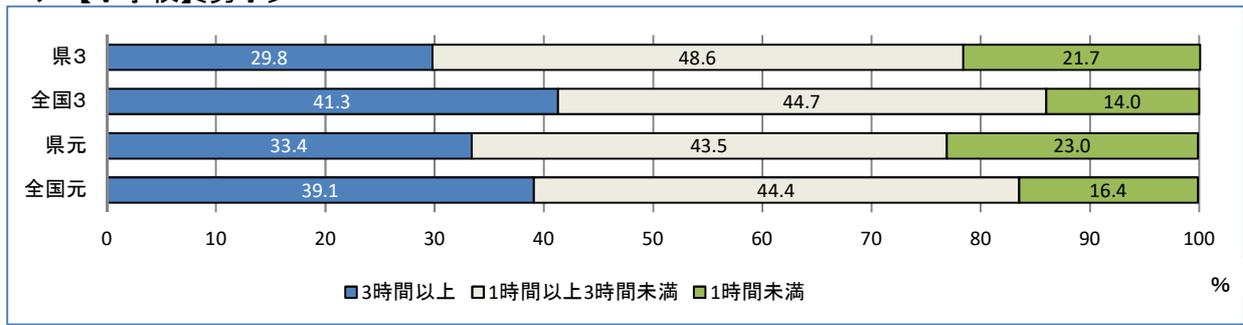
- 睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともにほとんど差がない。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「8時間以上」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

【中学校】

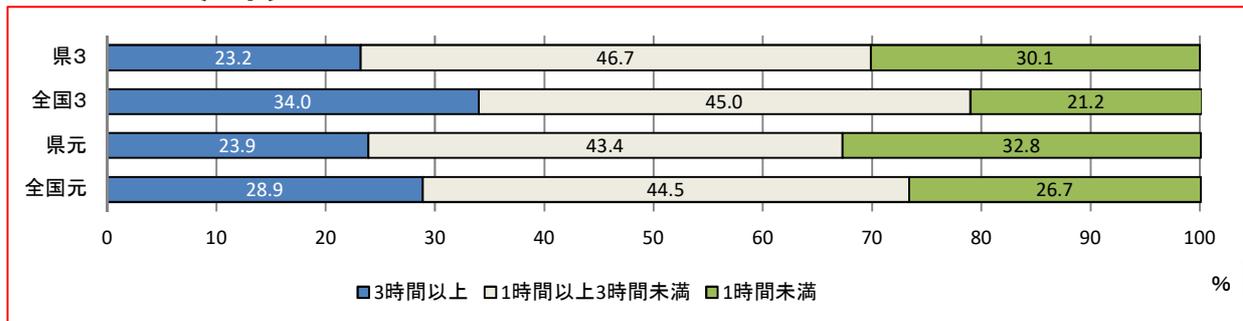
- 睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに高く、女子はほとんど差がない。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「8時間以上」と回答した割合は、男子は高くなっており、女子はわずかに高くなっている。

### (3) 平日のスクリーンタイムの結果

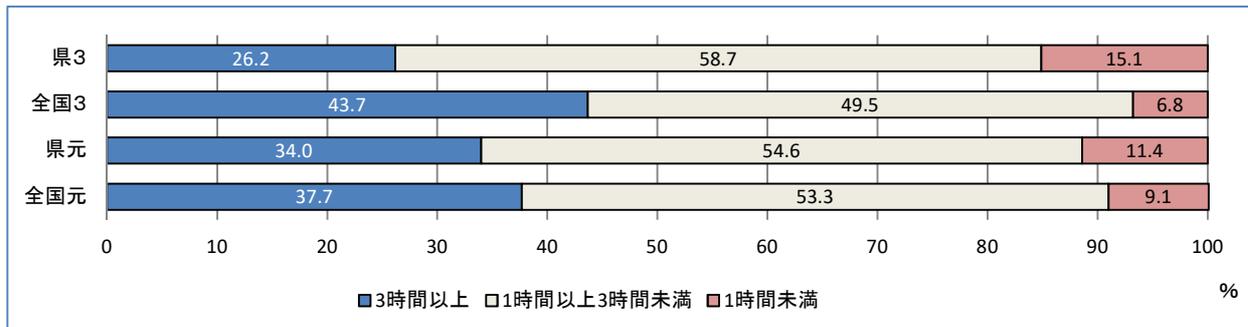
#### ア【小学校】〔男子〕



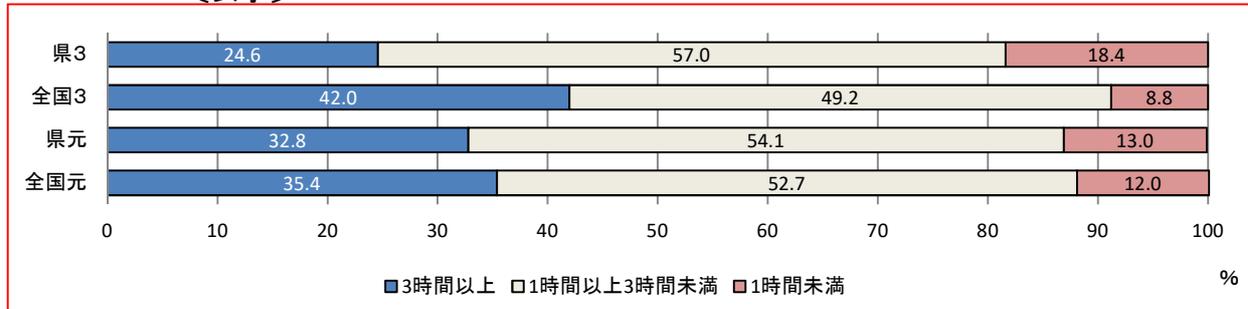
#### 〔女子〕



#### イ【中学校】〔男子〕



#### 〔女子〕



#### 〈現状〉

##### 【小学校】

- スクリーンタイムが「3時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「3時間以上」と回答した割合は、男子は低くなっており、女子はほとんど差がない。

##### 【中学校】

- スクリーンタイムが「3時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「3時間以上」と回答した割合は、男女ともに低くなっている。

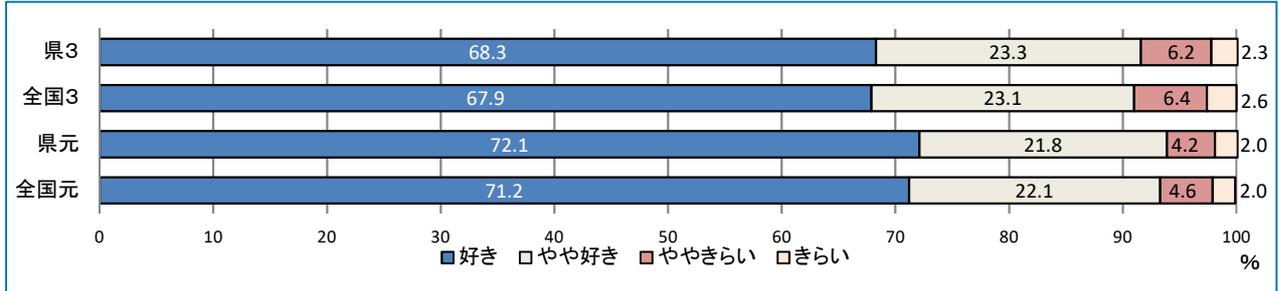
## 5 運動やスポーツ, 体育・保健体育の授業に関する調査結果概要

### (1) 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることの好き・きらい

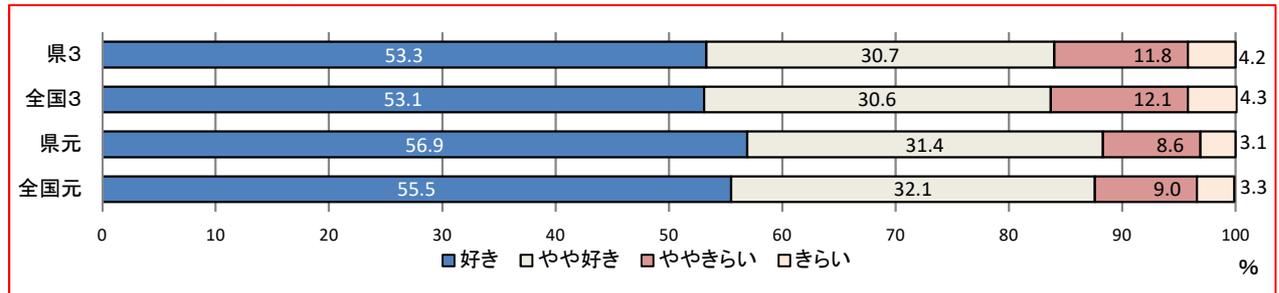
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

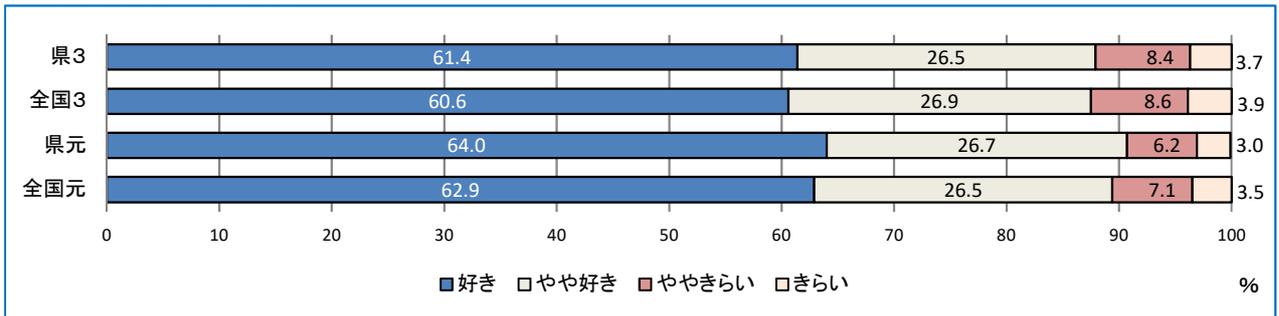
#### ア【小学校】〔男子〕



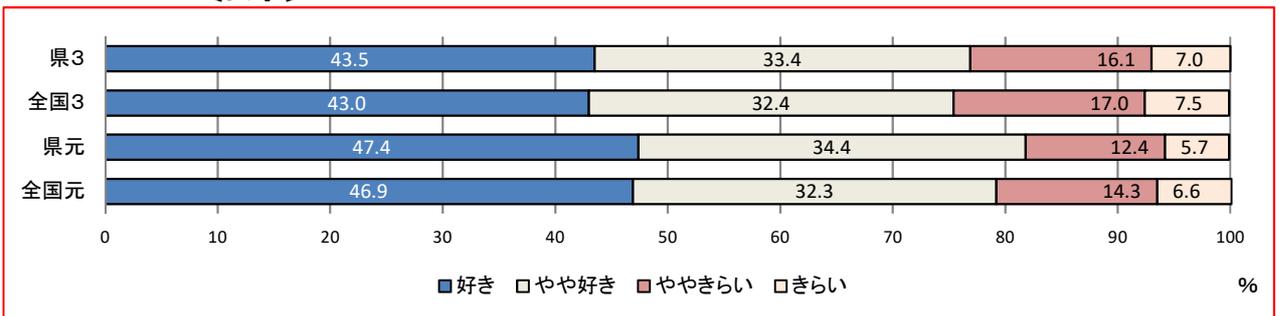
#### 〔女子〕



#### イ【中学校】〔男子〕



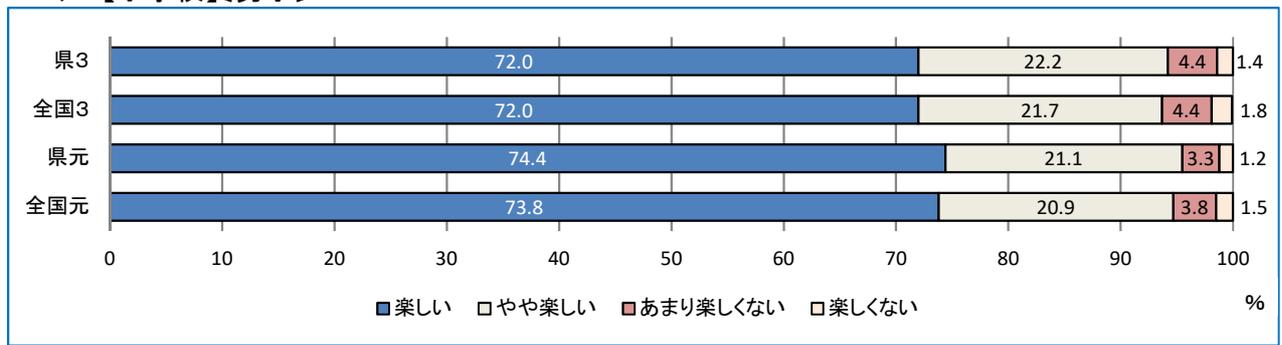
#### 〔女子〕



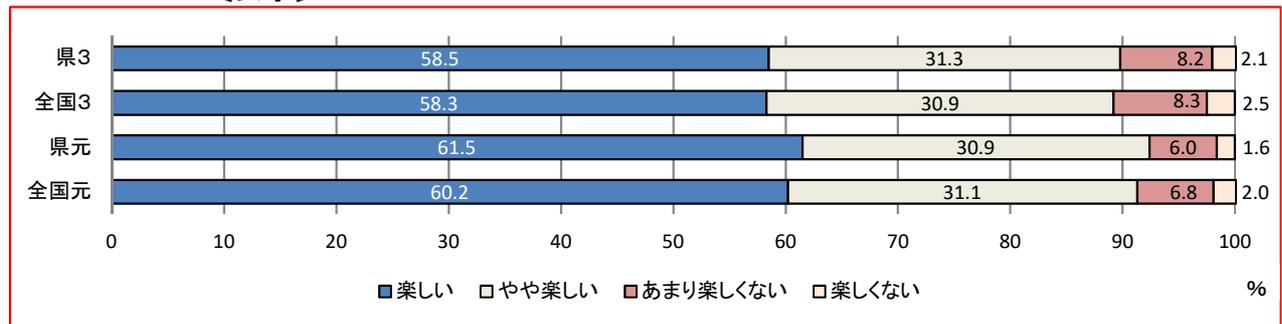
#### 〈現状〉

- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると, 小中学校男女ともにほとんど差がない。
- 県の令和元年度平均と比較すると, 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合は, 小中学校男女ともに低くなっている。

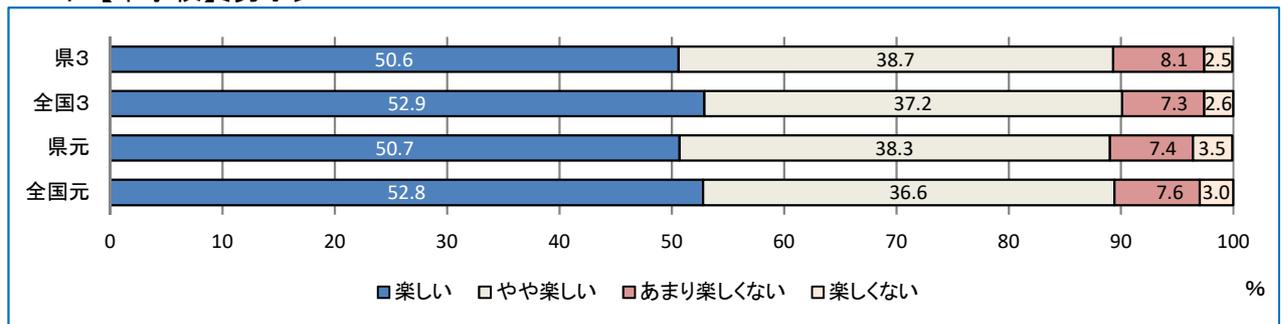
(2) 体育(保健体育)の授業が楽しいか  
ア【小学校】[男子]



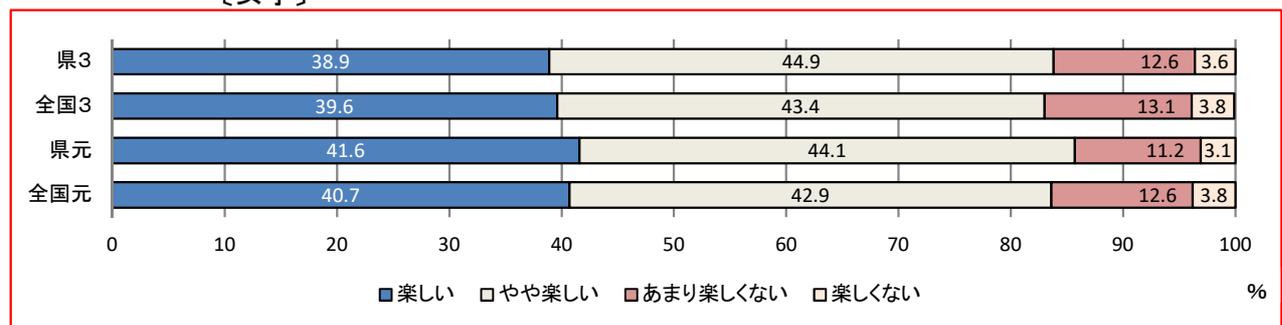
[女子]



イ【中学校】[男子]



[女子]



〈現状〉

【小学校】

○ 体育の授業が「楽しい」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともにほとんど差がない。

○ 県の令和元年度平均と比較すると、体育の授業が「楽しい」と回答した割合は、男女ともに低くなっている。

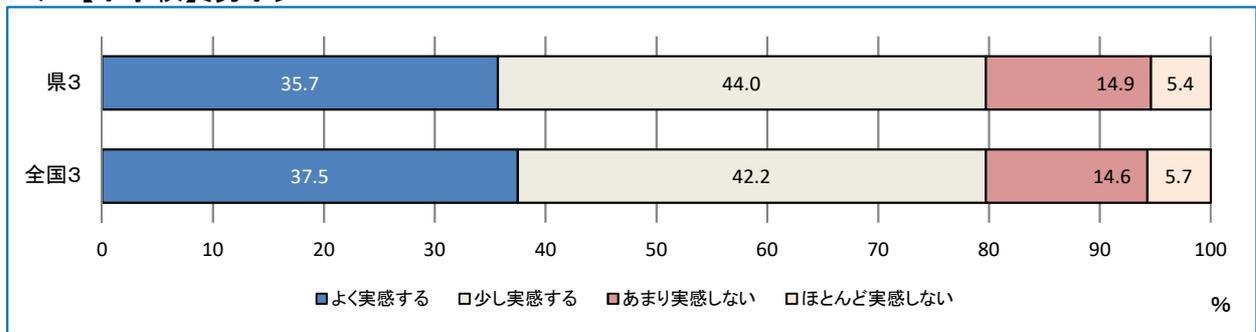
【中学校】

○ 保健体育の授業が「楽しい」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子は低く、女子はほとんど差がない。

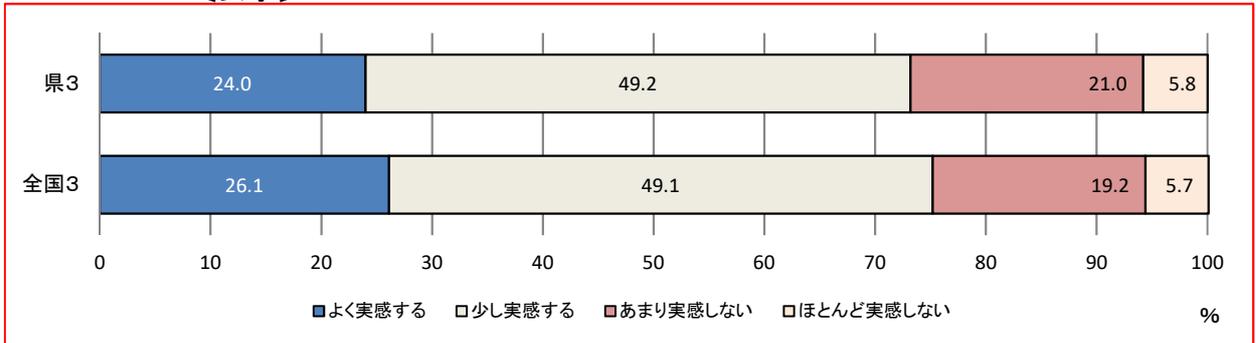
○ 県の令和元年度平均と比較すると、男子はほとんど差がないが、女子は低くなっている。

(3) 体育(保健体育)の授業で自分の動きが向上していることを実感することがあるか。(新規)

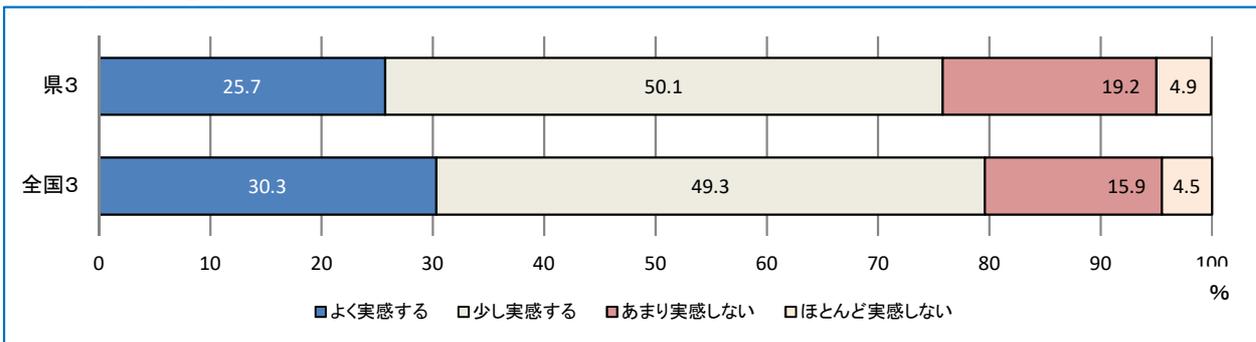
ア【小学校】〔男子〕



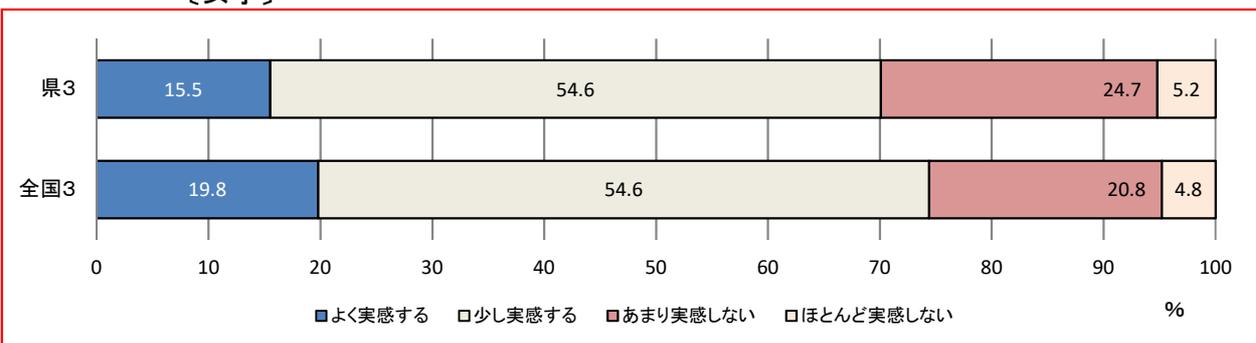
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

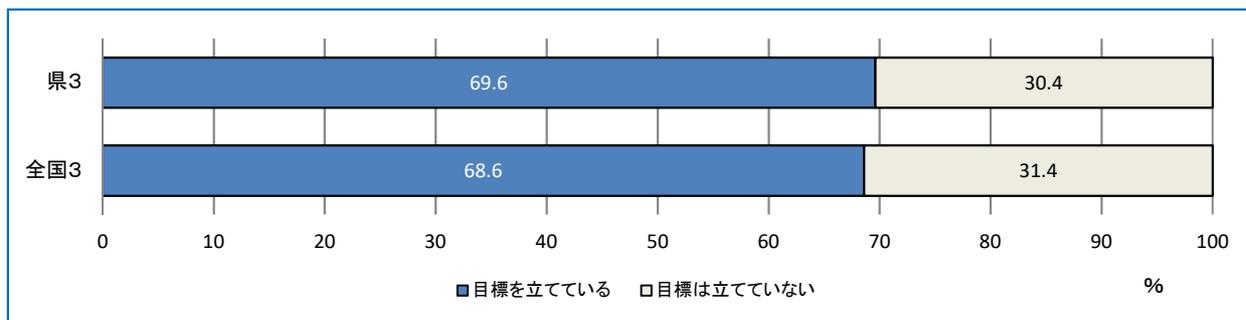
【小学校】

○ 体育の授業で自分の動きの向上を「よく実感する」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに低く、女子は低い。「あまり実感しない」「ほとんど実感しない」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに高い。

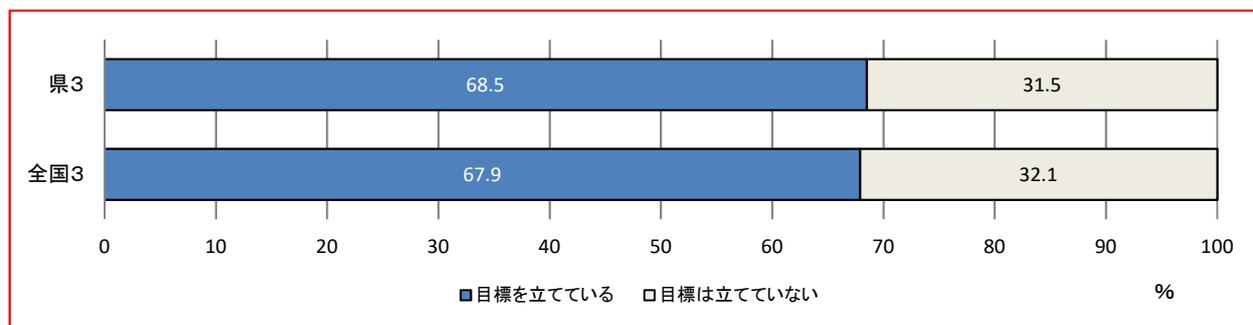
【中学校】

○ 保健体育の授業で自分の動きの向上を「よく実感する」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。「あまり実感しない」「ほとんど実感しない」と回答した割合は、男女ともに高い。

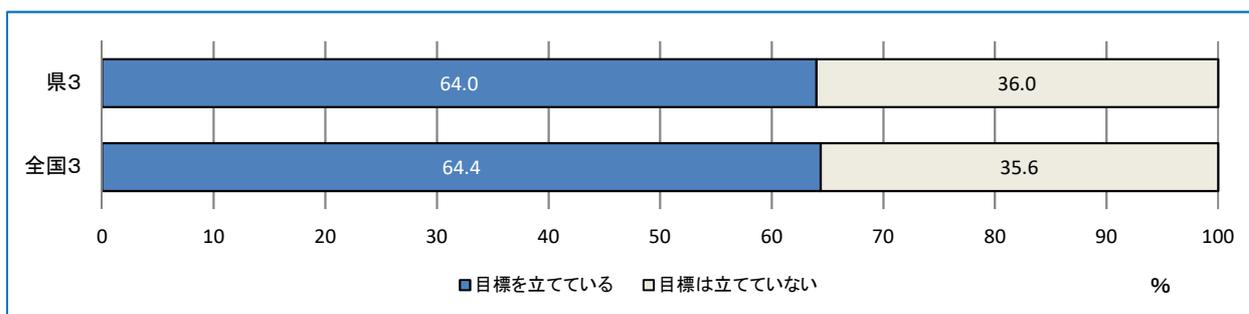
(4) 体力テストの結果や体力・運動能力の向上について自分なりの目標を立てているか。(新規)



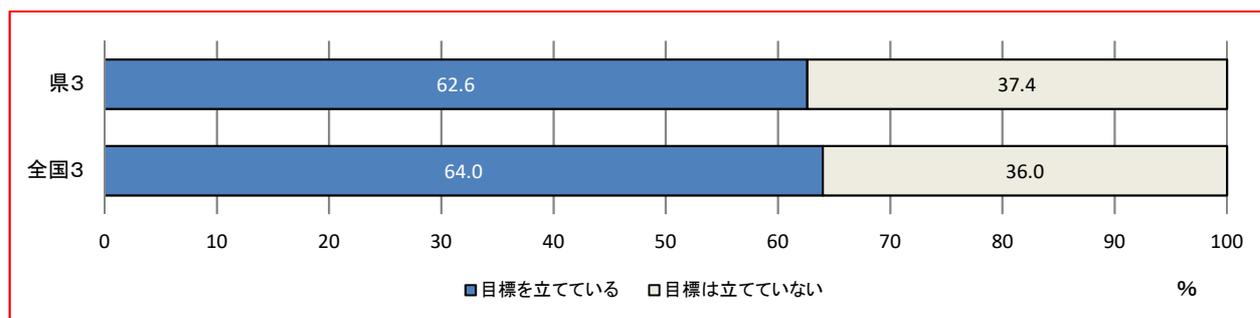
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

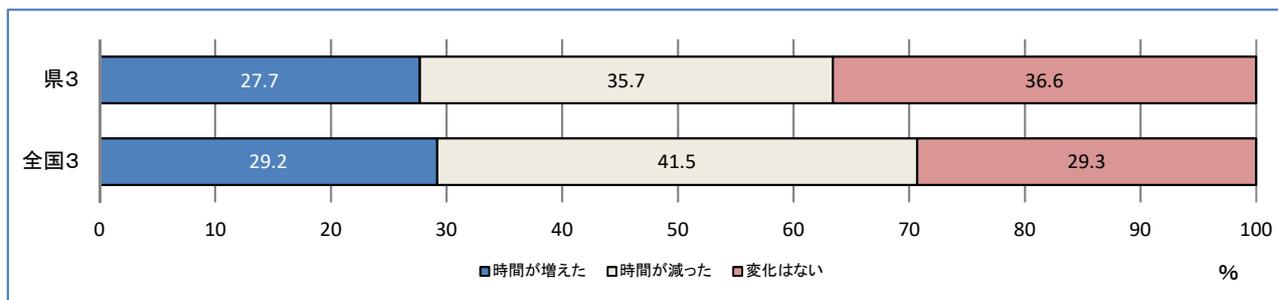
○ 自分なりの「目標を立てている」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに高く、女子はほとんど差がない。「立てていない」と回答した割合は、男子はわずかに低く、女子はほとんど差がない。

【中学校】

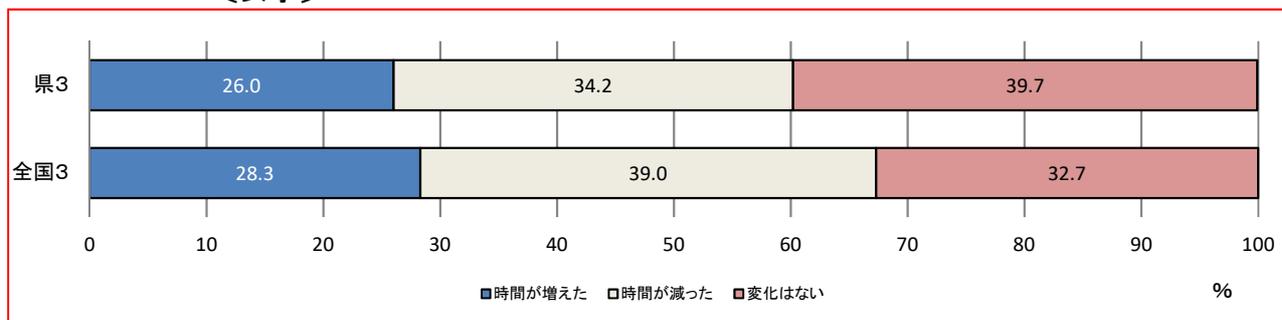
○ 自分なりの「目標を立てている」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低い。「目標を立てていない」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに高い。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響前後の運動やスポーツをする時間はどのように変化したか。(新規)

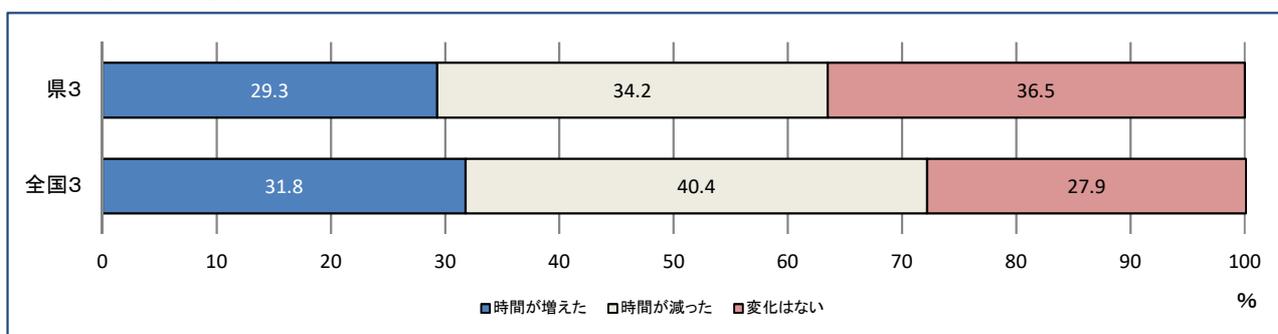
ア【小学校】〔男子〕



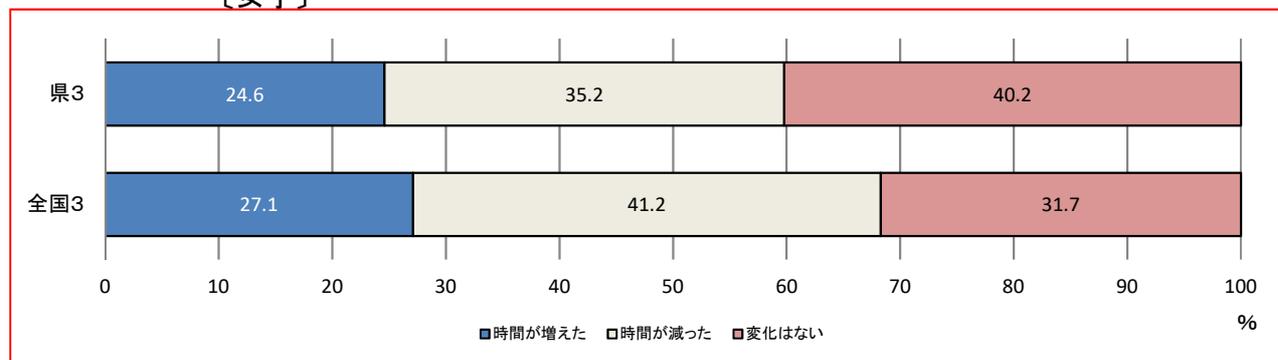
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

- 運動やスポーツをする「時間が増えた」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに低く、女子は低い。
- 運動やスポーツをする「時間が減った」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。「変化はない」は男女ともに高い

【中学校】

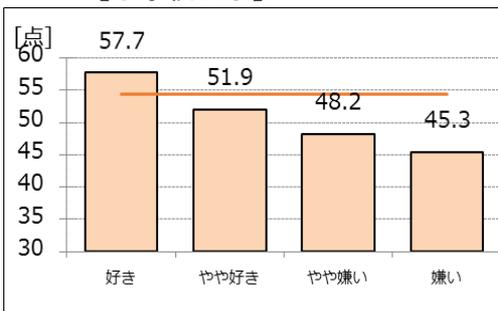
- 運動やスポーツをする「時間が増えた」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。
- 運動やスポーツをする「時間が減った」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。「変化はない」は男女ともに高い

6 児童生徒の回答と体力合計点等とのクロス集計 ※グラフ内横線は県平均値

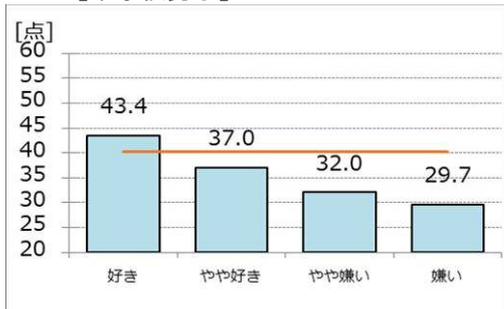
(1) 「運動やスポーツが好き」と体力合計点  
【小学校男子】



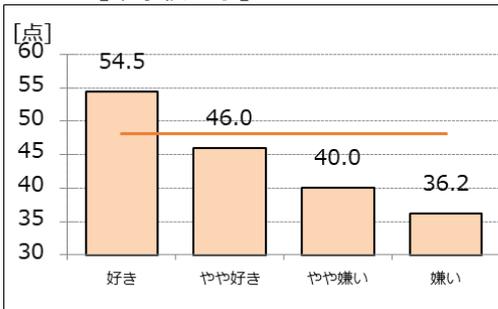
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】

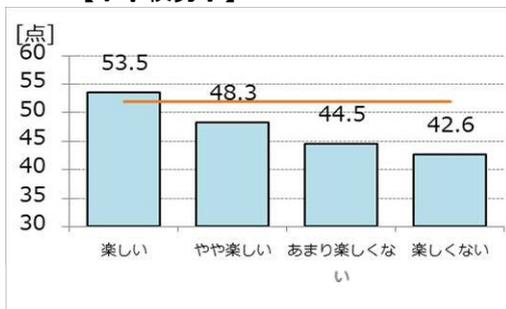


〈現状及び考察〉

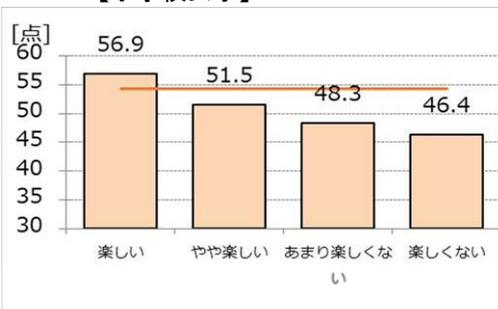
小中学校男女とも「運動が好き」と回答した児童生徒の体力合計点は高く、「運動が嫌い」と回答した児童生徒の体力合計点は低くなっている。

※ 「運動が嫌い」な児童生徒への手立てを継続して行う必要がある。

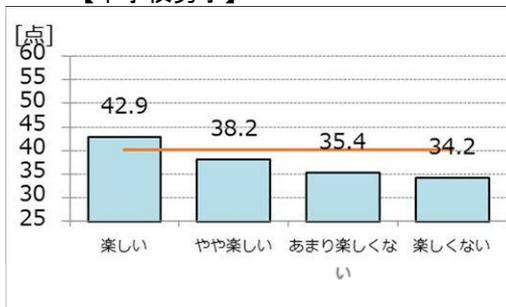
(2) 「体育の授業が楽しい」と体力合計点  
【小学校男子】



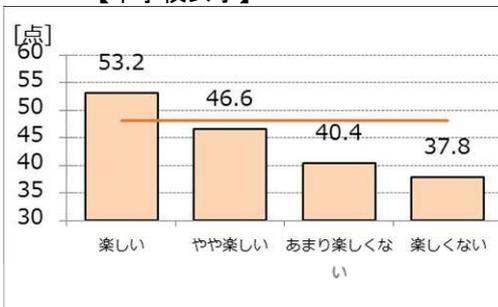
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】

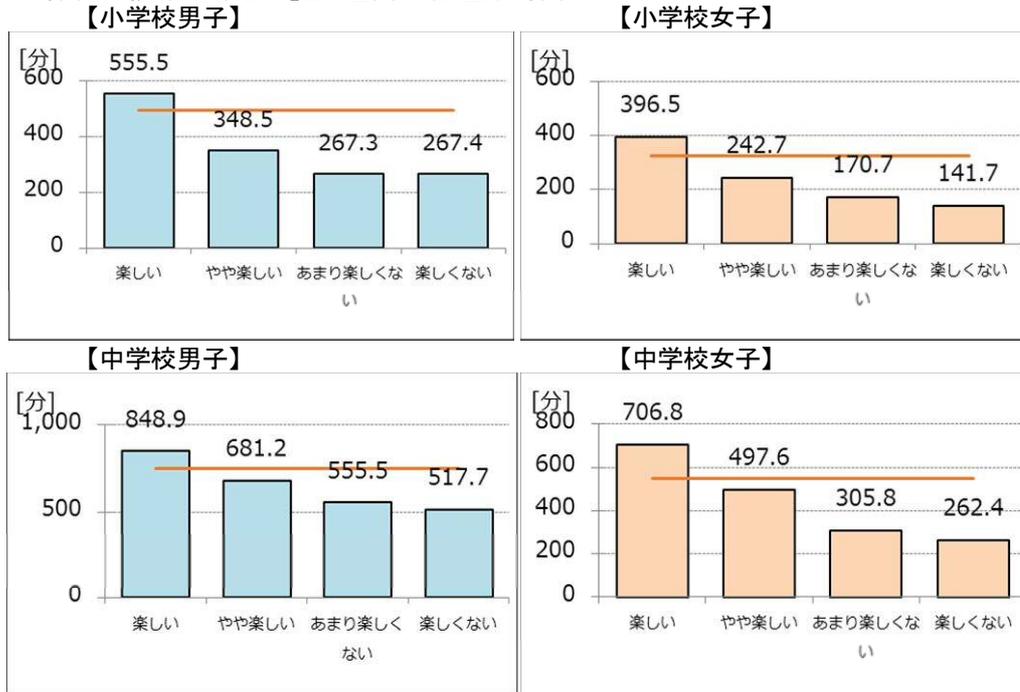


〈現状及び考察〉

小中学校男女とも「体育の授業が楽しい」と回答した児童生徒の体力合計点は高く、「体育の授業が楽しくない」と回答した児童生徒の体力合計点は低くなっている。

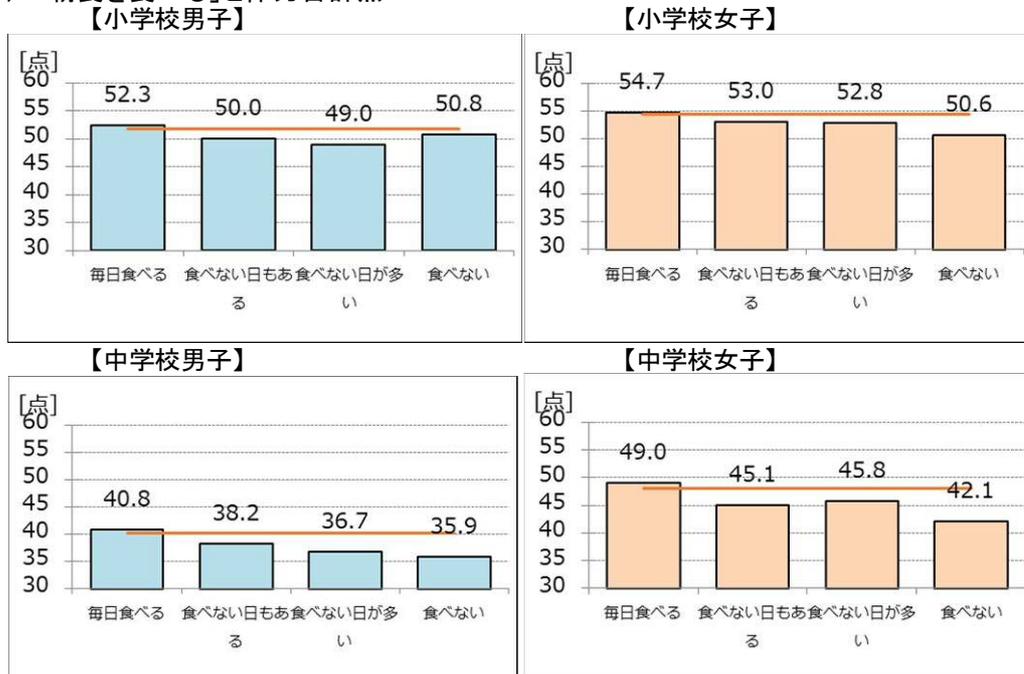
※ 「体育の授業が楽しくない」という児童生徒への手立てを継続して行う必要がある。

(3) 「体育の授業が楽しい」と1週間の総運動時間



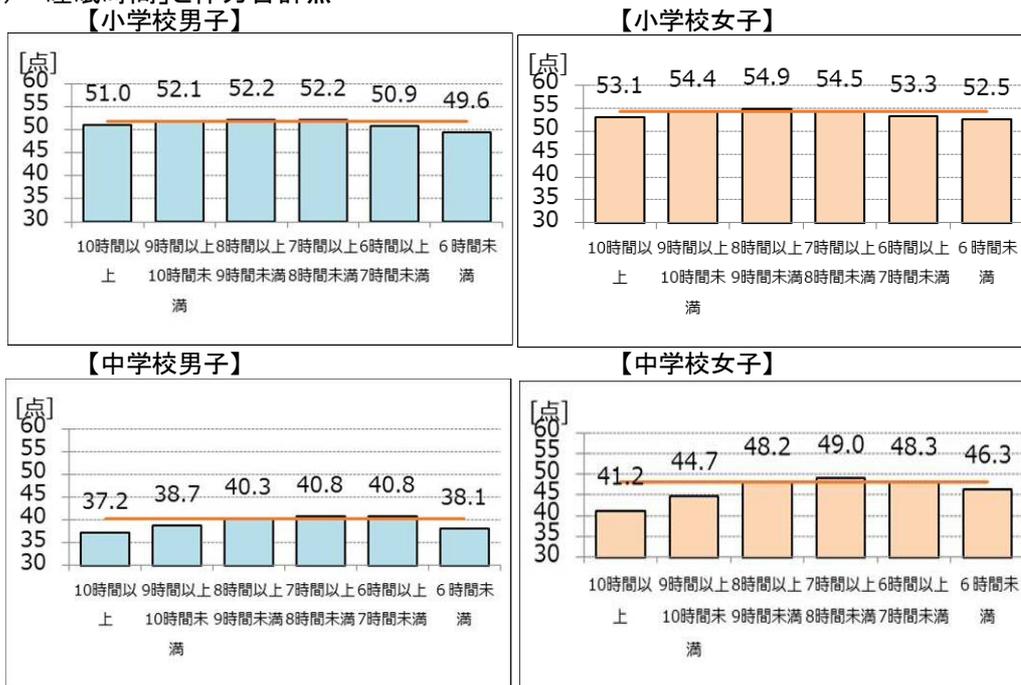
〈現状及び考察〉  
 小中学校男女とも「体育の授業が楽しい」と回答している児童生徒の1週間の総運動時間は、「体育の授業が楽しくない」と回答している児童生徒より大幅に長くなっている。  
 ※ 児童生徒が運動の特性に触れ、「楽しい」「またやりたい」と思うような授業の工夫・改善を図り、運動の日常化へとつなげていくことが重要である。

(4) 「朝食を食べる」と体力合計点



〈現状及び考察〉  
 小中学校男女とも朝食を「毎日食べる」と回答している児童生徒の体力合計点は、朝食を「食べない日もある」、「食べない日が多い」「食べない」と回答している児童生徒と比べると高くなっている。  
 ※ 朝食を毎日摂ることが、体力の向上につながっていることが伺える。

(5) 「睡眠時間」と体力合計点

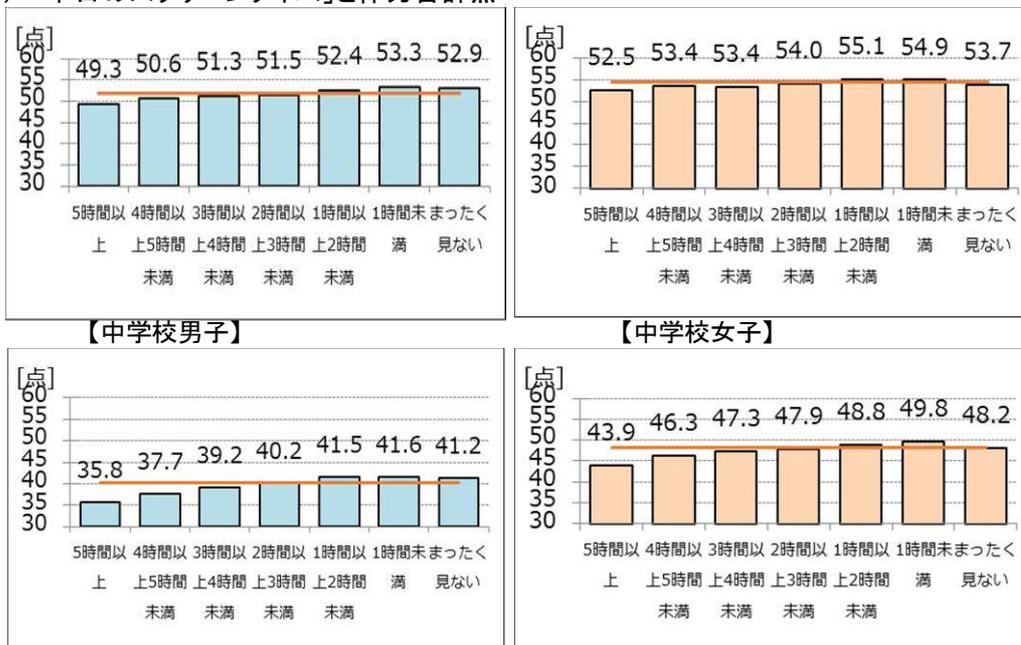


〈現状及び考察〉

小中学校男女とも睡眠時間が「6時間未満」の児童生徒と睡眠時間が「10時間以上」の児童生徒の体力合計点は、睡眠時間が「6時間以上10時間未満」の児童生徒と比べると低くなる傾向がある。

※ 適度な睡眠時間は、体力の向上につながっていることが伺える。

(6) 「平日のスクリーンタイム」と体力合計点



〈現状及び考察〉

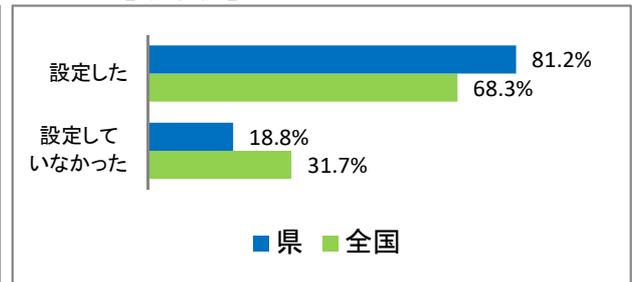
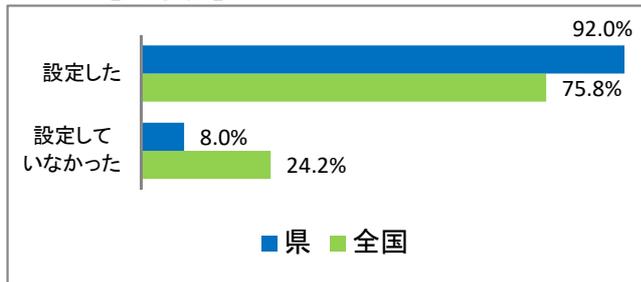
小中学校男女とも「平日のスクリーンタイム」が長くなるほど、体力合計点が低くなっている。

※ 「テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面の見過ぎややり過ぎ」は、体力の向上を阻害する要因の一つになっていると考えられる。

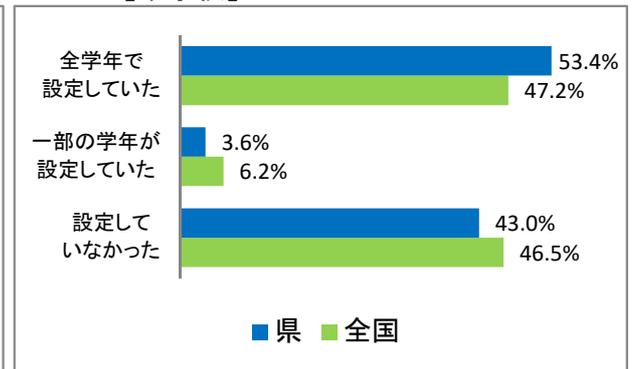
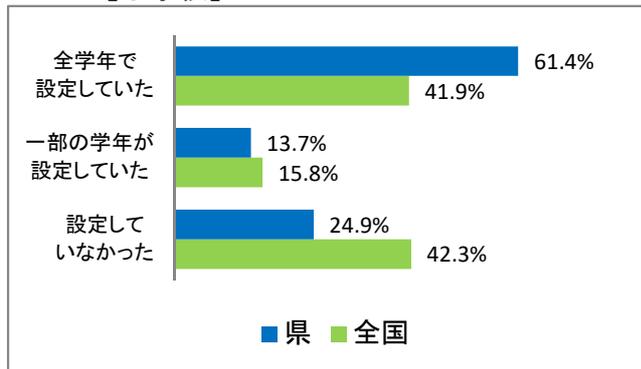
## 7 学校質問紙から

※ 全国の数値は公立

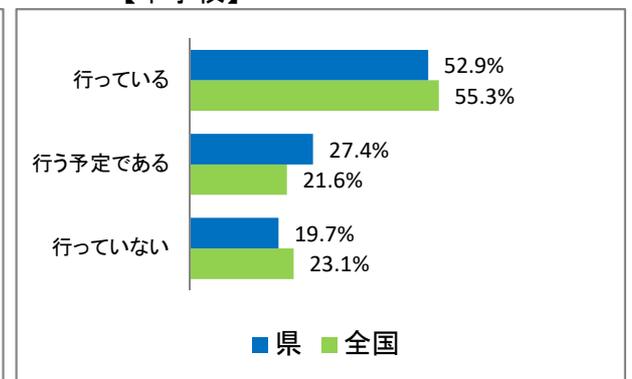
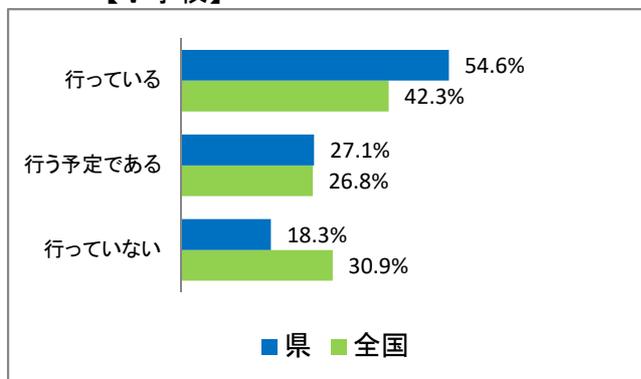
### (1) 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標設定



### (2) 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標設定



### (3) 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒向け、性別に応じた取組



#### 〈現状及び考察〉

○ 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標を「設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

○ 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標を「全学年で設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

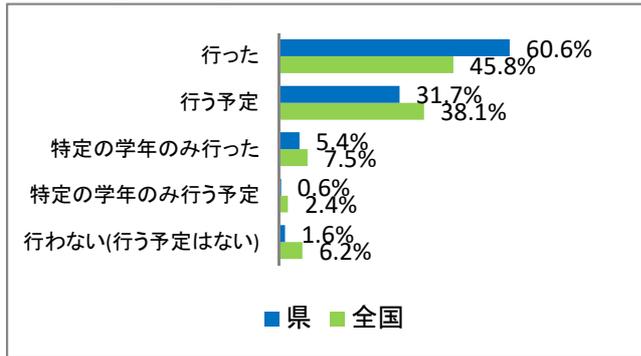
※ 学校全体の目標を基に、発達の段階に応じて学年の目標を設定するとともに、各学校の「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランを活用した、体力向上に向けた取組を推進する体制づくりを構築する必要がある。

○ 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒、性別に応じた取組を「行っている」と回答した割合は、全国平均と比較して、小学校は高いが、中学校はわずかに低い状況である。

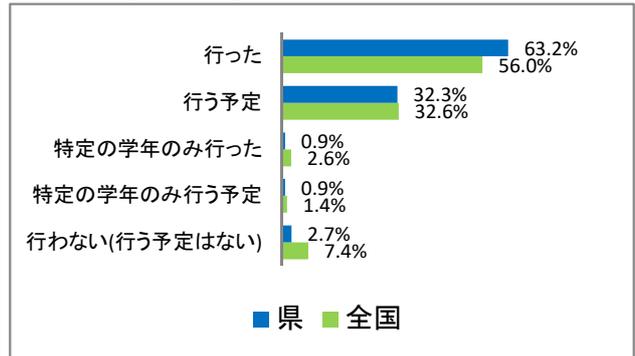
※ 小学校学習指導要領において、運動が苦手な児童・運動に意欲的でない児童への配慮の例が示され、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有するなど内容の改善が図られている。これを受けて中学校においても、小中の系統性を意識した指導を工夫する必要がある。

(4) これまでの調査結果を踏まえた授業改善の有無

【小学校】



【中学校】

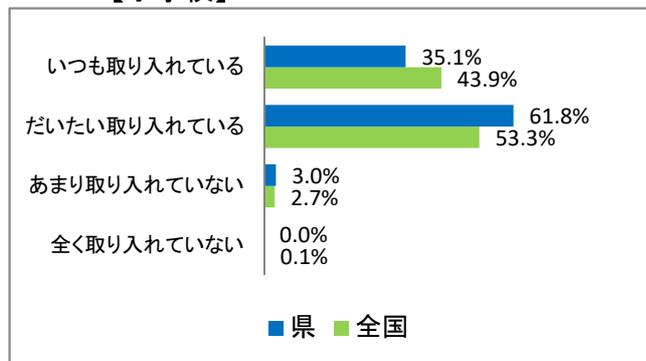


〈現状〉

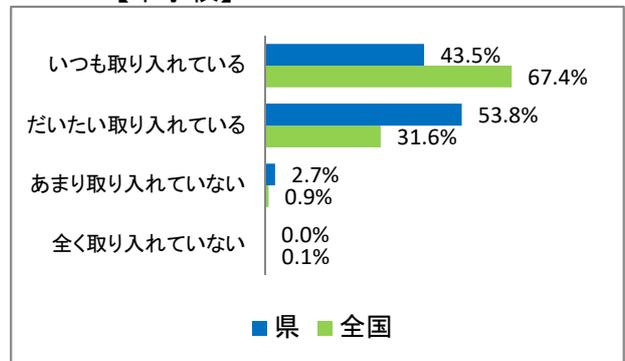
これまでの全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた授業改善を「行った」と回答している学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

(5) 体育・保健体育授業での目標(めあて・ねらい等)の提示

【小学校】

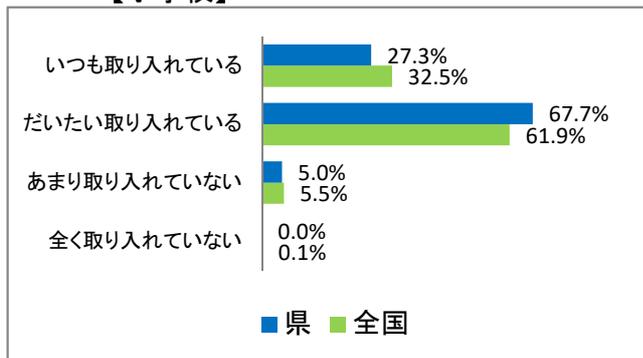


【中学校】

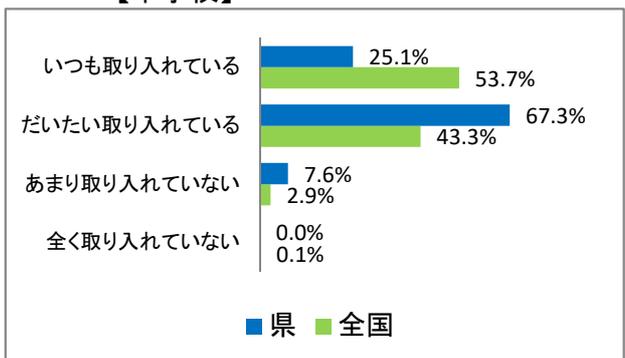


(6) 体育・保健体育授業での振り返りの活動の設定

【小学校】



【中学校】



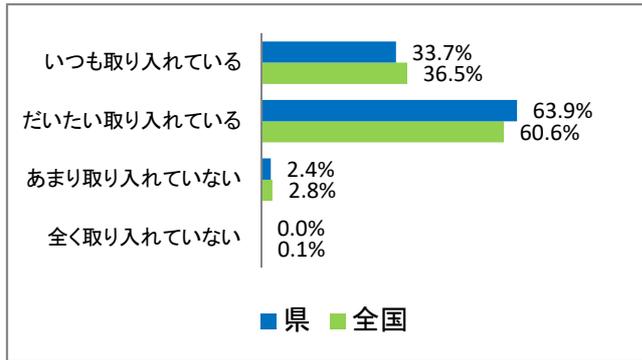
〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに目標(めあて、ねらい等)の提示や振り返りの活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

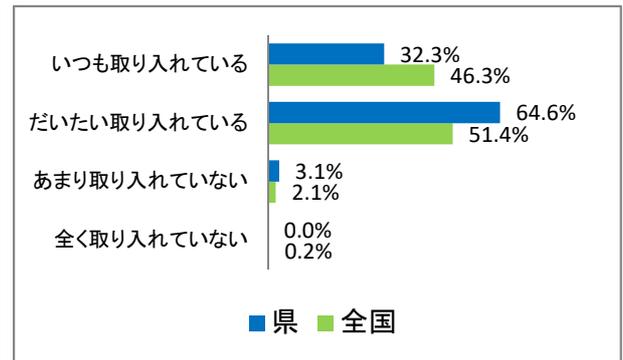
※ 特に、中学校は、「いつも取り入れている」と回答した割合が、全国平均よりも非常に低い状況であることから、生徒が目的意識をもって学習に取り組むとともに、学習の成果(自己の伸びや新たな課題)を確認して次時の学習につなげるなど、深い学びに向けた、体育・保健体育の授業における目標の提示及び振り返りの活動を授業に位置付けていく必要がある。

(7) 体育・保健体育授業で、児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動の設定

【小学校】

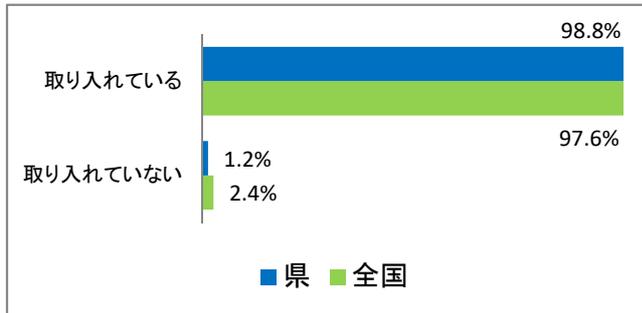


【中学校】

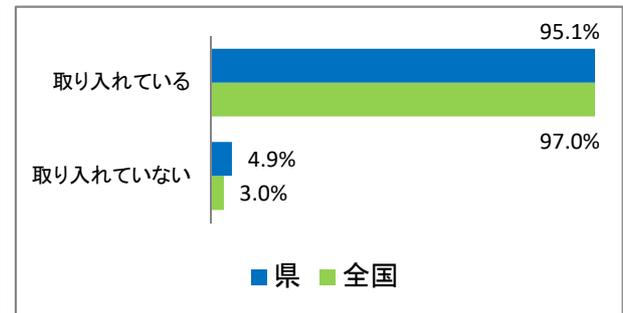


(8) 体育・保健体育授業で、児童生徒が話し合う活動の設定

【小学校】

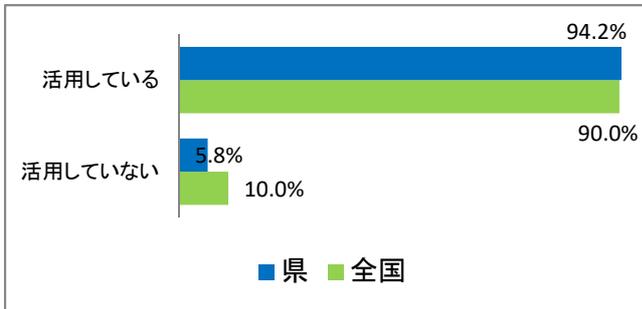


【中学校】

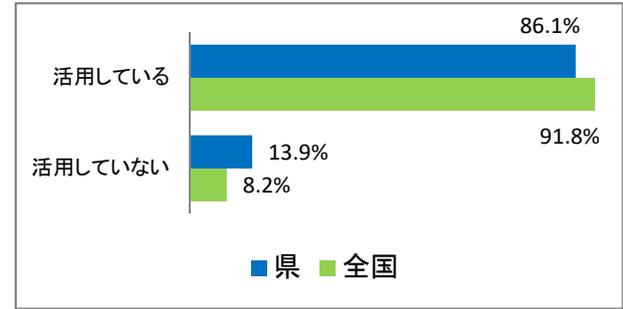


(9) 体育・保健体育授業でのICTの活用

【小学校】



【中学校】



〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

○ 授業で児童生徒が話し合う活動を「取り入れている」と回答した割合は、小中学校ともに全国平均と同様に高い状況である。

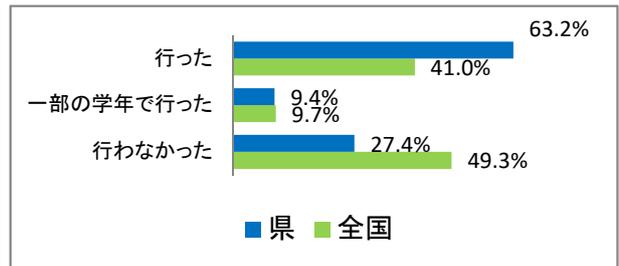
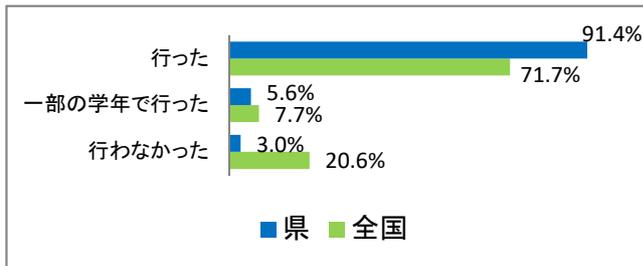
※ 特に小学校では、一部の学年で取り入れている状況が多く見られるが、話し合いの目的を明確にした授業づくりや発達の段階に応じた話し合いの仕方の指導を行い、児童が主体的・対話的で深い学びを通して、身に付けるべき内容を習得し、課題解決を図る工夫を推進していく必要がある。

○ 授業において、ICTを「活用している」と回答した学校の割合は、小中学校ともに全国平均と同様に高い状況である。

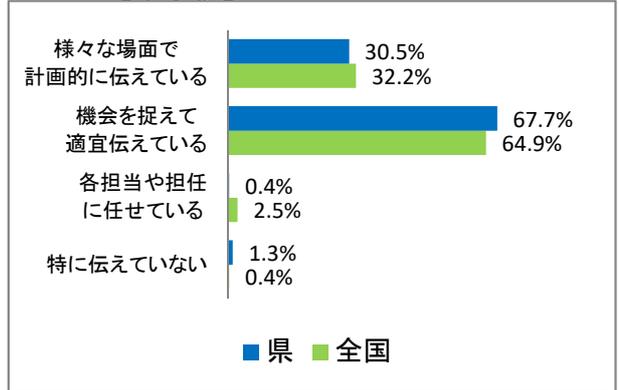
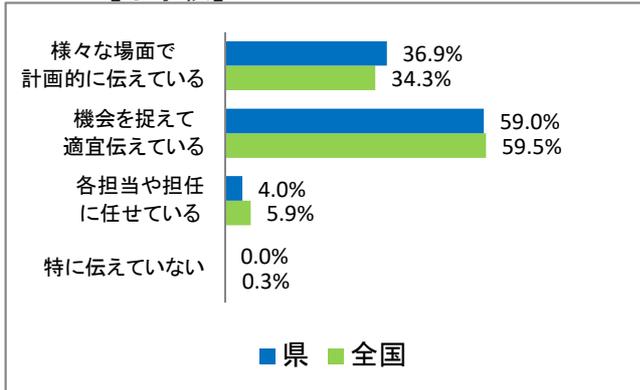
※ 教科指導におけるICTの活用の必要性については、新学習指導要領においても総則や解説(体育編)にも記載されている。ICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図り、児童生徒の学習内容の習得へつなげていく授業改善が求められる。その際、ICTを活用する目的や効果的な活用場面等について、整理しておくことが重要である。

【活用例】 ・動きを撮影 ・ゲームや試合の様子を撮影 ・以前に撮影した動きと比較  
・毎時間の記録など

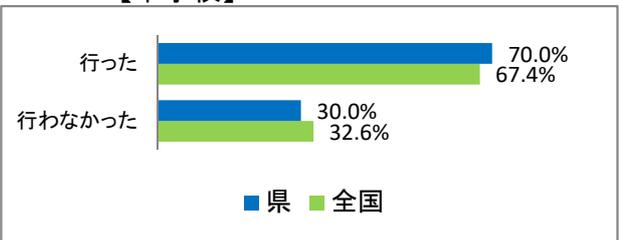
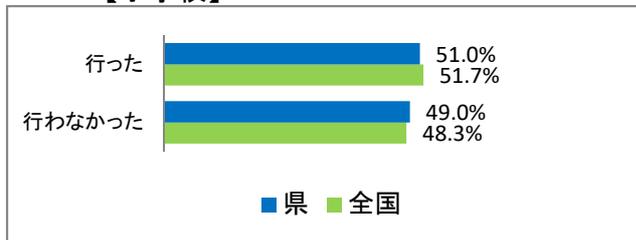
(10) 令和2年度における体育、保健体育の授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組  
 【小学校】 【中学校】



(11) 健康三原則(運動、食事、休養及び睡眠)の大切さについての児童生徒への伝達  
 【小学校】 【中学校】



(12) 令和2年度におけるオリンピック・パラリンピック教育に係る取組  
 【小学校】 【中学校】



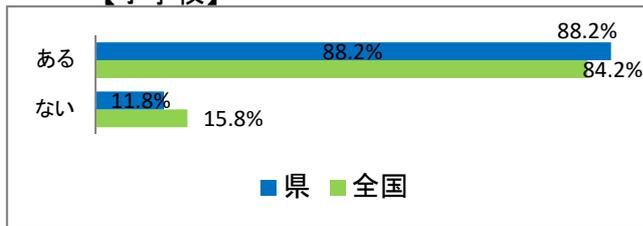
〈現状及び考察〉

- 令和2年度における体育、保健体育の授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組について「行った」と回答した割合は、小中学校ともに全国平均と比較して高い状況である。
- 健康三原則の大切さを「様々な場面で計画的に伝えている」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校は高く、中学校はわずかに低い状況である。
- ※ 健康の保持増進には、1日の生活の仕方が深く関わっており、運動、食事、休養及び睡眠を取ることが必要であるということについて、保健の授業だけでなく、教育活動全体を通して児童生徒に指導することが重要である。
- 令和2年度に「オリンピック・パラリンピック」教育に関する取組を「行った」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校はほとんど差がなく、中学校は高い状況である。
- ※ 新学習指導要領において、改善の具体的事項として、「オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実」が新たに明記されている。本県においても、今年度まで推進してきた「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」における推進校の実践等を、今後は各地区内で広げ、それぞれの実態に応じて推進を図っていくことが望まれる。

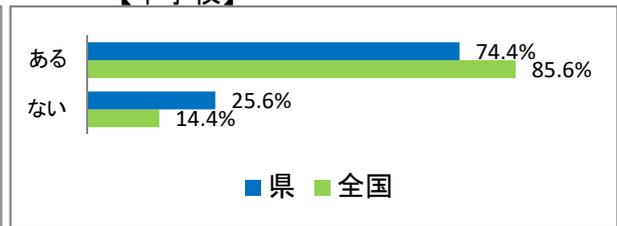
(13) 教員同士による児童の体力・運動能力の向上に関する取組

授業方法の工夫・改善に向けた検討の機会

【小学校】

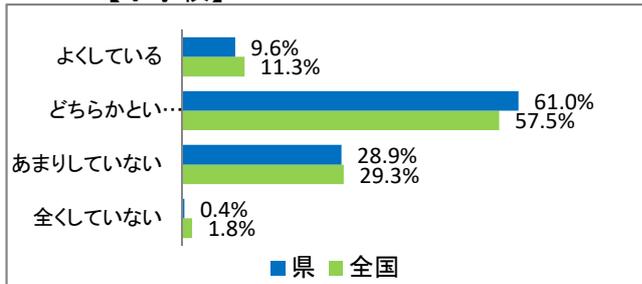


【中学校】

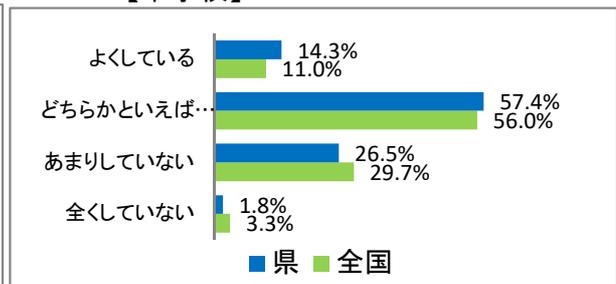


(14) 体力向上に対する校内外の研修や研修会に参加し、自校の取組に反映

【小学校】

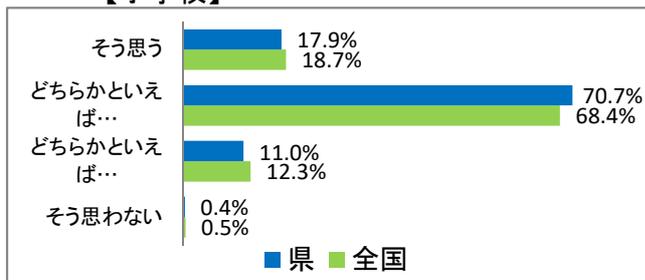


【中学校】

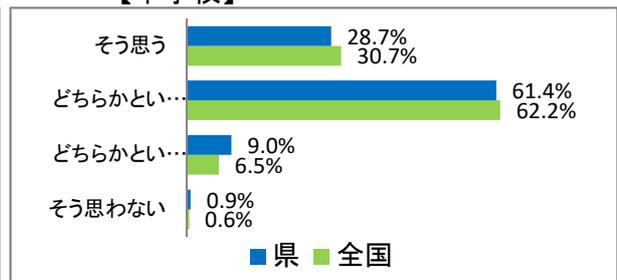


(15) 児童生徒の体力向上に関する教師の意識は高いと思うか。

【小学校】

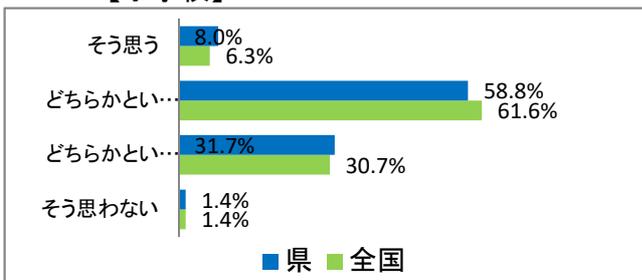


【中学校】

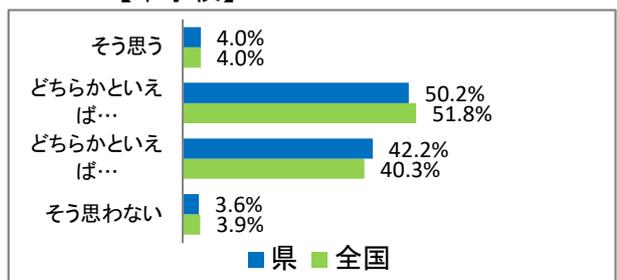


(16) 児童生徒の体力向上に関する家庭の関心は高いと思うか。

【小学校】



【中学校】



〈現状及び考察〉

- 教員同士で児童生徒の体力向上や指導法改善について検討する機会が「ある」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校が高く、中学校が低い状況である。
- 体力向上に対する校内外の研修や研修会へ参加し、自校の取組に「よく反映している」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校がわずかに低く、中学校が高い状況である。
- ※ 特に小学校では、校外の研修会等に参加した後に、校内で報告する機会を設定するなど、情報を共有する場を設定し、全校体制で推進する必要がある。
- 児童生徒の体力向上に関する教師の意識が「高いと思う」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校はほとんど差がなく、中学校は低い状況である。
- 児童生徒の体力向上に関する家庭の関心が「高いと思う」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校はわずかに高く、中学校は差がない状況である。
- ※ 学校のホームページ等で児童生徒の体力の現状や学校の取組を発信したり、地域スポーツ人材を活用したりして、保護者や地域と一体となった取組を推進することが望まれる。

## 8 全体考察

### 《今後の方向性》

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、小学校、中学校、高等学校を通じて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現・継続する資質・能力を育成することを重視する観点から、児童生徒に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する取組を具体的に進める。

体力向上に関しては、その核となるのは、体育・保健体育の授業の充実である。そのために、次のポイントに留意する必要がある。

- 柔軟性を高める運動を取り入れた準備運動、補助運動
- 3つの資質・能力の育成と指導内容の明確化
- 授業改善（「カリキュラム・マネジメント」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現）
- 「個に応じた指導」の一層の充実
- 運動の特性に応じた楽しさを味わうことができる場面の保証

また、本県の子どもは、運動への興味・関心や体育・保健体育の授業に対する意識が高いことから、学校において、教師が児童生徒の実態を真剣に受け止め、運動好きな子どもを育てるために、具体的には、次のような授業を目指して、改善を進めていきたい。

#### ＜運動好きな子どもを育てる授業を目指して（一単位時間の具体例）＞

- 1 本時のめあて（全体・個人）を確認させる。
- 2 問題解決的な学習を展開する。
- 3 学習過程（流れ）を明確にし、活動の見通しをもたせる。
- 4 個人（チーム）の課題を解決する場や仲間と教え合ったり、話し合ったりする場を意図的に設定する。
- 5 教具（ICT機器含む）の活用や発問の工夫を行い、「分かった」「できた」などの経験をさせ、運動することや学ぶことの楽しさ、喜びを味わわせる。
- 6 本時のめあてに対する振り返りをする。
- 7 振り返りを通して、自分（チーム）の技能や思考・判断面で伸びを実感させ、達成感につなげる。

このような授業を通して、全ての子どもが、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導の在り方について改善を図るとともに、自己の適性に応じて「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けることで「運動好きな子ども」を育てることを目指す。

また、体育・健康に関する指導については、子どもの発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した指導の充実を図る。

さらに、子どもの体力向上に関して、家庭への啓発を行い、理解と協力を求めたり、関係機関と連携し、外部指導者を活用したりするなど、学校・家庭・地域が連携し、一体となった取組を推進する。

子どもが運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができる授業を目指しましょう！



## 《今後の方向性》

### ◆ 学校の組織的な取組の推進を支援

- 各学校における「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成、活用
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析と活用促進
- 体力ナビの積極的活用と児童生徒一人一人への体力カードの作成
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小中高)による実践的取組の紹介
- 「新体力テストで児童生徒のもっている力を引き出す指導のポイント(改訂版)」の活用促進
- 小・中・高等学校版「体力アップ！チャレンジかごしま」の継続実施(工夫・改善)
- 体力づくり「一校一運動」の推進

### ◆ 運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた運動の楽しさを追求した授業、体育指導の工夫改善の支援

- 小・中・義務教育学校体育主任等研修会
- 「運動好きな子どもを育てる」指導者研修会の実施
- 小学校教諭等体育セミナーの開催
- 保健・保健体育担当者研修会
- 武道・ダンス指導者研修会
- 中学校柔道授業における安全に関する指導者研修会
- 新任幼稚園教諭への「幼児期運動指針」についての研修
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)による実践的研究及び第1期推進校(小学校2校, 中学校2校)による研究公開
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)への地域スポーツ人材の派遣
- かごしまの子ども体力向上プログラム(小学校版, 中・高等学校版)の活用促進

### ◆ 運動習慣の育成に向け、学校・家庭・地域が一体となった取組の促進

- 体力の向上、運動習慣の育成に向けた啓発資料の活用促進  
(これならできる!「プラス5分運動」)
- 地域スポーツ人材を活用した運動習慣育成教室の実施
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(第1期)研究公開による普及啓発
- 体力向上推進フォーラム(「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進フォーラム)の開催
- 関係機関と連携したイベント

## 更なる充実に向けて

体力向上のための推進期間を設定しましょう(月間・週間・曜日等)。

### <期間設定の例>

- 1 名称 「運動大好き“○○○っ子”」推進(月間・週間), チャレンジウイーク 等
- 2 期間 ・学期○回 ・月○回 ・週○回 等
- 3 設定の仕方
  - (1) 学校行事と関連付けて, その前後に設定する。(月間)
  - (2) 業間と関連付けて, 年間を通して設定する。(曜日)
  - (3) 学校・家庭・地域と連携して設定する。(週間)
- 4 留意事項
  - (1) 体力向上に向けて学校全体で取り組む。
  - (2) 内容は, 一校一運動や体力・運動能力, 運動習慣等調査結果等を考慮する。
  - (3) 「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」に内容や期間等を記入する。

9 改善のポイント

県教育振興基本計画における数値目標(体力合計点)

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
小5男子	県	53.23	52.57	感新 染型 症コ の影 響に よ り ス 中 止	51.85	⇒	全 国 平 均 を 上 回 る
	全国	54.21	53.61		52.52		
小5女子	県	55.00	54.87		54.34	⇒	
	全国	55.90	55.59		54.64		
中2男子	県	40.88	40.32		40.27	⇒	
	全国	42.32	41.69		41.18		
中2女子	県	49.40	49.03		48.13	⇒	
	全国	50.61	50.22		48.56		

運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた学校における  
体力向上, 運動習慣改善のPDCAサイクル

Plan

- 1 児童生徒の体力・運動能力向上, 運動習慣, 授業改善に向けた目標の設定
- 2 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成
- 3 学校の実態や体力課題に即した「一校一運動」の推進計画
- 4 児童生徒や家庭の実態に即した「一家庭一運動」の周知・啓発と実施

【課題1】 体力合計点が全国平均に達していない  
【課題2】 1週間の総運動時間が3回連続で減少している。

Action

- 1 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの改善
- 2 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策検討
- 3 家庭への児童生徒の体力, 運動習慣の結果報告による説明責任

Check

- 1 新体力テスト, 体力・運動能力調査等の結果と考察
- 2 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの活用
- 3 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策についての検討

Do

- 体力づくり全体計画に基づくPDCAサイクルの確実な推進
  - (1) 「楽しい体育・保健体育」の授業充実
    - すべての児童生徒が楽しく, 安心して運動に取り組むことができる授業
    - 授業における目標の提示・確実なまとめの実施
    - 「主体的・対話的で深い学び」による授業の展開
    - 職員研修や研究授業による指導力の向上
  - (2) 新体力テストの実施
    - 実施目的, 測定方法等の共通理解
    - 児童生徒に目標をもたせる事前指導の充実
    - 「体力ナビ」活用による意欲喚起
  - (3) 「一校一運動」, 業間体育等の工夫による運動機会の確保
  - (4) 運動に消極的な児童生徒を支援する運動習慣育成教室の推進
  - (5) 「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組
  - (6) 部活動の充実
  - (7) 家庭と協力した運動・生活習慣の改善
    - 土日の運動時間の確保
  - (8) 家庭への体力向上に関する啓発
    - これならできる! 「プラス5分運動」リーフレット配布と活用促進